

京都市域に所在する『教育碑』についての総合的考察（一）

— 教育碑に関する実地調査結果とその分析 —

教育学科 生 田 義 久

抄 録

現在の京都市域には教育・文化都市としての都市特性を反映し、教育に関わる碑が多数存在している。本研究においては、教育碑と定義した195基の碑を対象に、各碑の碑文、形状、管理状況等について実地調査を行うとともに、その結果を踏まえ、教育碑が全体として表象する京都の教育特性やその基盤をなす教育的風土を明らかにすることを目指した。本稿では、先ず、実地調査の結果把握した各碑の状況を「京都市域に所在する『教育碑』目録」としてとりまとめたうえで、碑の対象年代、建立時期、建立者、地理的分布、建立目的、機能、管理状況の7つの観点から分析を行い、その特徴や傾向を明らかにすることができた。さらに、本稿での調査・分析をふまえ、教育碑が表象する京都の教育特性や教育風土について、別稿において考察を行った。

Key Words：教育碑 京都市 実地調査結果 目録 管理状況

1 はじめに

京都^[1]は、建都以来1200年を超える長い歴史と伝統の中で、常に革新を重ね新しい創造を続けてきた世界でも稀な都市であり、今、世界の文化首都に向けた歩みを続けている。市内には、その表象として、多くの神社仏閣・旧蹟などの文化財が存在し、全国の国宝の19%、重要文化財の16%が集積している^[2]（2016年4月1日現在）。

同時に、それら有形の建造物や美術・工芸品だけではなく、度重なる地震や火災等の自然災害、応仁の乱や禁門の変等により現在は姿を消した史蹟や、先人の業績等を今日に伝える多くの「碑（いしぶみ）」が存在している。とりわけ、教育・文化都市としての都市特性を反映

し、教育に関わる碑（以下、「教育碑」と略す。）も数多い。それらの碑は、それぞれの時代背景の下に、特定の目的をもって建立されたものであると同時に、一連の碑群としてとらえる時、京都の教育特性や教育的風土を浮き彫りにする貴重な存在である。

しかし、これまで、個別の碑や津波碑、慰霊碑等についての先行研究^[3]はみられるものの、特定の都道府県・市町村等の区域内に所在する教育碑を対象とした研究例は見受けられない。

本稿では、現在の京都市域に所在する教育碑を対象として、各碑の碑文等についての実地調査を行い、個別の碑の状況を把握するとともに、建立時期や建立者・地理的分布・建立目的等多様な観点から特徴分析を行うこととした。また、碑の管理状況についても調査を行い、今

後の効果的な保存・管理の在り方についても考察を行った。

2 研究の進め方

本研究は、以下の手順により実施した。

2-1 教育碑の定義

「碑」については、広辞苑（第六版）には、「後世に伝えるため、石に文を刻んで、建てたもの。いしぶみ。石碑。たていし。」と記されている^[4]が、必ずしもその定義が定まっている状況にはない。本稿においては、次の条件を満たす碑を教育碑と定義し、研究対象とした。

- ① 現在の京都市域内に所在するもの。
- ② 何らかの形で「教育」との関わりを有するもの。
- ③ 素材は「石」のみには限定しない。
- ④ 建立趣旨等を説明する碑文や副碑の有無は問わない。ただし、道標、墓碑、彫像、胸像、モニュメントに類するものは対象としない。
- ⑤ 現在は存在しない施設や過去の人物・機関等に関わるもの。ただし、学校等で建立されることが多い教育理念・校訓、周年記念等に関わる碑は対象としない。

2-2 教育碑の特定

京都市域に所在する碑については、京都市歴史資料館による詳細な調査の結果が、「碑データベース」（以下、「碑データ」と略す。）として同館のwebサイト上に公開されている^[5]。それによると、市域内に1492基（かつて存在したものの現在、所在不明のものを含む）を確認でき、その中から、前記2-1の定義に合致する碑120基を、教育碑として特定した。さらに、各種の文献、論文、webサイト等から前記定義に合致する75基を特定し、合計195基を本稿の研究対象とした。ただし、前記2-1 ④、⑤で対

象外となるものについても、教育との関りの深さを勘案し必要なものは対象とし、駒札についても4基（別添目録中〔A-1-09, 34, 46〕〔B-1-07〕）を対象とした。

2-3 実地調査の実施

前記2-2の教育碑について、各碑の形状、碑文、副碑・説明版等について実地調査を行うとともに、建立目的等を説明する碑文の存在しないものについては、文献や関係者からの聞き取りなどにより解明に努めた。あわせて、碑の状態、管理・活用状況についても確認を行った。

【調査実施期間】

2016（平成28）年4月22日～2017（平成29）年8月10日

3 調査結果の概要

195基の教育碑についての実地調査の結果明らかとなった個別の碑の状況は、別添の「京都市域に所在する『教育碑』目録（概要版）」（以下、「目録」と略す。）に掲げたとおりである。それらを踏まえ、「各教育碑が表象する事件・事物・人物等（以下、「事績等」と略す。）が存在又は生起した年代」（以下、「対象年代」と略す。）、「建立時期」、「建立者」、「地理的分布」、「建立目的」、「機能」の観点から全体状況の分析を行った。結果の概要は以下のとおりである。（文中の〔A-1-01〕等の番号は目録中の各碑の番号を示している。）

3-1 対象年代について

対象年代については、Table 1のとおり、日本書紀の編纂者であり最古の学者と伝えられる舎人親王（670～735）を顕彰する「学藝の祖 舎人親王崇敬碑」〔B-2-01〕が対象とする奈良時代から平成時代に至るまで、幅広い時代にわたっているが、鎌倉時代の事績等を対象とするものは確認できなかった。中世には寺社や武家

の学問所等も設けられており、それらを表象する碑の確認は今後の課題である。明治時代の事績等を対象とするものが93基（47.7%）と最多であり、続いて江戸時代が52基（26.7%）となっている。

3-2 建立時期について

建立時期については、「奉先堂」碑〔B-2-02〕が唯一、江戸時代1758（宝暦8）年に建立されている以外は、Table 2のとおり、すべて明治時代以降に建立されている。

奉先堂は、朱子学の祖、林羅山（1583～1657）の学術徳行を称えるため、孫の林鳳岡（1644～1732）が、羅山が徳川家康（1542～1616）から拝領した鞍馬二ノ瀬の地の庄屋・今江清長に建てさせた家廟で、その後廃絶し、現在は碑のみが残されている。建立時期の最多は昭和時代が82基（42.1%）、続いて平成時代60基（30.8%）となっている。なお、昭和時代の内、戦後（1945年8月15日以降）に建立されたものは45基（54.9%）である。明治時代以降、我が国が近代国家として発展・成熟の道を歩むにつれ、各時代背景の下で、多彩な建碑活動が展開されてきたことがうかがえる。

3-3 建立者について

建立者については、Table 3のとおり、公的団体・機関が67基（34.6%）、私的団体・機関が83基（42.6%）、個人（有志等を含む）が32

基（16.4%）となっている。公的団体・機関の主なものは、国、地方自治体、教育委員会、公立学校等であるが、特徴的な建立者は、京都市教育会（以下、「市教育会」と略す。）である。

「教育会」は、1880年代以降、全国的に教員の研究組織として設置され、京都市では、1898（明治31）年の市政特例^{〔6〕}撤廃後、1902（明治35）年2月8日に、既設の京都府教育会とは全く別の新たな組織として、市教育会（会長・木下廣次市長）が発足した^{〔7〕}。「京都市教育會沿革略」には、「京都市教育の普及発達を図る」ことを目的とし、事業実施のために学校教育部等6つの部の一つとして社会教育部が設けられ、具体的事業として「史蹟保存石柱（石標）建設」が掲げられている^{〔8〕}。1915（大正）4年11月には大正天皇即位大礼奉祝記念事業の一つとして、新村出京都帝国大学文学博士（当時）を顧問とする「京都市教育会史蹟調査委員会」が設置され、「小中学校の国史教科書に見えたるもの」を中心として建設候補が挙げられ、その数は合計372基にのぼっている^{〔9〕}。その後、大正4年から同6年にかけて主として平安京関連の史蹟、私塾、貴族の私邸等に関わる建碑が、昭和2年から同4年にかけては幕末・維新に関わる建碑が行われ、1939（昭和14）年の建碑まで確認できる。現在、「碑データ」には、74基が掲げられ^{〔10〕}、内、教育碑は、18基〔A-1-01～04, 07, 10, 12, 15, 17, 19, 22, 23, 27, 31, 35, 36, 44, 45〕となっている。

Table 1 「教育碑の対象年代」

（基 N=195）

奈良時代	1 (0.5 %)	平安時代	7 (3.6 %)	室町時代	1 (0.5 %)
安土桃山時代	4 (2.1 %)	江戸時代	52 (26.7 %)	明治時代	93 (47.7%)
大正時代	11 (5.6 %)	昭和時代	19 (9.7 %)	平成時代	7 (3.6 %)

Table 2 「教育碑の建立時期」

（基 N=195）

江戸時代	1 (0.5 %)	明治時代	9 (4.6 %)	大正時代	27 (13.8 %)
昭和時代	82 (42.1 %)	平成時代	60 (30.8 %)	不明	16 (8.2 %)

Table 3 「教育碑の建立者」

(基 N=195)

団体・機関		150 (76.9%)	内 訳 ([] 内は目録の分類記号)
内 訳	公的団体・機関	67 (34.6%)	京都市教育委員会 21 [A1] 京都市教育会 18 [A2] 京都市 11 [A3] 京都府 6 [A4] 京都府教育会 1 [A5] 旧北桑田郡 1 [A6] 国 1 [A7] 公立学校 8 [A8]
	私的団体・機関	83 (42.6%)	私立学校・法人 16 [B1] 同窓会等 19 [B2] 各種実行委員会等 9 [B3] 顕彰会・保存会等 8 [B4] 学会・連盟等 9 [B5] 自治会等 9 [B6] 京都史蹟会等 9 [B7] 寺社・企業 4 [B8]
個 人		32 (16.4%)	
不 明		13 (6.7%)	

Table 4 「教育碑の地理的分布」

(基 N=195)

北 区 11 (5.6 %)	上京区 37 (19.0 %)	中京区 54 (27.7 %)	下京区 27 (13.8 %)
南 区 2 (1.0 %)	東山区 12 (6.2 %)	左京区 29 (14.9 %)	右京区 6 (3.1 %)
西京区 5 (2.6 %)	山科区 1 (0.5 %)	伏見区 11 (5.6 %)	

私的団体・機関は、各種の私立学校（法人）、同窓会、実行委員会、学会・連盟、顕彰会、自治会等多彩であるが、特徴的な建立者は京都史蹟会である。京都史蹟会は、京都に関する史実を調査し、社会に貢献した事績や事物を顕彰することを目的とする歴史研究団体で、1913（大正2）年2月、京都の呉服商「千吉」の11代目当主西村吉右衛門（1884～1944）によって設立された。その後、財団法人化され戦後も活動は継続し、最終的に1997（平成9）年10月に解散している^[11]。その活動の一環として建碑が行われ、「碑データ」には29基が掲げられ^[12]、内、教育碑は、5基[A-1-38, 40, B-1-02～04]となっている。民間の任意団体により、広範囲かつ継続的に建碑が行われた背景にある吉右衛門の京都の史蹟・文化財保護に懸ける思いの強さ・情熱を感じとることができる。

個人の建立者の中で、特筆すべきは三宅安兵衛・清治郎父子である。大正末から昭和初期にかけて、西陣で卸業を営んでいた三宅清治郎は、1920年代を中心に、父三宅安兵衛（1842～1920）の遺言を受け、京都市を中心に京都

府南部に合計四百基以上の石標を設置した。「三宅安兵衛遺志碑」と呼ばれ、中村武生によって237基確認されている^[13]。その多くは名所旧跡の石標や道標であるが、本稿の教育碑の中では唯一、「綜芸種智院蹟」碑[A-1-05]が三宅清治郎によって建立されている。安兵衛が「京都の為公利公益の事に使用せよ」^[14]と遺した資金を基に、特定の人物や業績の顕彰ではなく、幅広い分野にわたる旧蹟を対象に大量の碑を建立した清治郎の行為は、正に、「公利公益」にかなう行為であり、一種の社会事業であったといえることができる。

3-4 地理的分布について

地理的分布については、Table4のとおり、現在の11行政区全てにわたって分布しているが、特に、中京区・上京区・下京区・左京区の4区に76%（147基）の碑が集中している。

古くからの洛中である中京区、上京区、下京区に多く見られるのは当然であるが、左京区内に29基が存在している。その背景には、市原野、修学院周辺等が朱子学の京学派の祖・藤原

惺窩（1561～1619）や石川丈山（1583～1672）の隠棲の地となっていたことや多くの大学等の存在などがあり、江戸時代初期以降から豊かな文化的土壌を有していたことをうかがわせる。

3-5 建立目的について

195基の教育碑は、その建立目的から、次の三つの群に大別できる。

- ① 平安京建都から今日に至るまでの様々な学習施設・教育機関等に関わる碑（A群）
- ② 各時代における個人、団体等による先駆的な取組や業績を顕彰する碑（B群）
- ③ 天災や戦争、事件・事故等の犠牲となった子供たちや教職員等の慰霊に関わる碑（C群）

さらに、A群については、明治維新前の教育

施設（A-1群）、維新後の初等中等教育施設（A-2群）、維新後の高等教育施設（A-3群）、天皇行幸関連碑（A-4群）の4群に、B群については、教育・文化、スポーツ分野での新たな取組の発祥等に関わるB-1群、個人の顕彰等に関わるB-2群の2群に分類できる（Table 5）。

A-1群では、江戸時代の私塾^[15]に関連する碑（以下、「私塾関連碑」と略す。）が、38基（19.5%）を占めること、A-2群では、京都市内で進展している大規模な京都市立学校・幼稚園の統合、戦後の新学制への移行等を背景として、番組小学校・幼稚園の開閉校等に関わる碑が31基〔A-2-01～28, A-2-33～35〕を占めること、さらに、大学関連碑や明治天皇等の行幸関連碑が占める比率が高いことが特徴的である。

Table 5 「教育碑の建立目的による分類」

（基 N=195）

A 群 学習施設・教育機関等に関わる碑			133
A-1 維新前教育施設	「大学寮」	1 基 [A-1-01]	(47)
	「大学別曹」関連	3 基 [A-1-02～04]	
	「綜芸種智院」	1 基 [A-1-05]	
	「菅家学問所」関連	2 基 [A-1-06, 07]	
	「私塾」関連	38 基 [A-1-08～45]	
	「京都学習院」（駒札）	1 基 [A-1-46]	
	「会津藩洋学所」	1 基 [A-1-47]	
A-2 維新後初等中等教育施設	「番組小学校」関連	28 基 [A-2-01～28]	(21) (53)
	「その他小学校」関連	4 基 [A-2-29～32]	
	「幼稚園」（単独）関連	3 基 [A-2-33～35]	
	「中学校・私立学校」関連	5 基 [A-2-36～40]	
	「盲啞教育」関連	3 基 [A-2-41～43]	
	「女子教育」関連	4 基 [A-2-44～47]	
	「高校・実業教育」関連	6 基 [A-2-48～53]	
A-3 維新後高等教育施設	「大学」関連	17 基 [A-3-01～17]	(20)
	「第三高等学校」関連	3 基 [A-3-18～20]	
A-4 天皇行幸関連碑	「天皇行幸」関連	11 基 [A-4-01～11]	(13)
	「東宮・皇后行啓」関連	2 基 [A-4-12, 13]	
B 群 先駆的な取組や功績・業績を顕彰			52
B-1 新たな取組の発祥等	「教育文化的活動」関連	17 基 [B-1-01～17]	(23)
	「スポーツ活動」関連	6 基 [B-1-18～23]	
B-2 個人の顕彰等		29 基 [B-2-01～29]	(29)
C 群 災害、事件事故等で犠牲となった学童・教師等を慰霊			10
[C-01～10]			

3-6 碑の機能について

碑は、建立趣旨や由来等を示す碑文や副碑等を有しないものと有するものに大別できる。前者は過去に存在した施設等の名称や位置を保存・表示することに主眼をおき（以下、「保存碑」と略す。）、後者は過去に存在した施設、人物・団体等の存在や意義・功績等を同時代や後世の人々に広く伝播していくことに主眼をいている（以下、「伝播碑」と略す。）。碑としての機能の発揮という観点からすれば、積極的な伝播機能まで有することが重要であると考え。

本稿での教育碑について、前記3-5の分類も踏まえ、保存碑と伝播碑の内訳についてみると、Table 6のとおり、保存碑が54基（27.7%）、伝播碑が141基（72.3%）となっており、保存碑が全体の約3割を占めている。市教育会により前述の「史蹟保存石柱」として建立されたものは高さ120cm×幅20cm×奥行20cm内外の石

柱形式であり、ほとんどは事績等の名称、建立期日、建立者しか刻まれていない。保存碑の内、市教育会・京都史蹟会の建立によるものをはじめ、同形式の石柱は、合計49基（90.7%）となっている。

4 教育碑の現姿・管理

碑は教育碑であるか否かを問わず、それ自体が貴重な文化財であり、適切な管理を行い、後世に伝えることが重要である。したがって、実地調査においては、碑の「現姿」及び「管理状況」についても調査を行った。

全195基の内、約8割（156基）の碑は「良好又は普通」の状態にあるが、「不良」の状態にあるものが37基（19.2%）にのぼっている。「林道春邸址碑」[A-1-09]のように存在場所すら不明になっているもの、在原氏の大学別曹跡を示す「奨学院址」[A-1-03]や「明治天皇

Table 6 「保存碑と伝播碑の内訳」

（基 N=195）

区 分		保 存 碑	伝 播 碑	計
A 群		44 (33.1%)	89 (66.9%)	133 (100.0%)
内 訳	A-1 維新前教育施設	30 (63.8%)	17 (36.2%)	47
	A-2 維新後初等中等教育機関	3 (5.7%)	50 (94.3%)	53
	A-3 維新後高等等教育機関	4 (20.0%)	16 (80.0%)	20
	A-4 天皇行幸碑	7 (53.8%)	6 (46.2%)	13
B 群		9 (17.3%)	43 (83.7%)	52 (100.0%)
内 訳	B-1 新しい取組の発祥等	5 (21.7%)	18 (78.3%)	23
	B-2 個人の顕彰等	4 (13.8%)	25 (86.2%)	29
C 群 学童・教師等を慰霊		1 (10.0%)	9 (90.0%)	10 (100.0%)
計		54 (27.7%)	141 (72.3%)	195 (100.0%)

Table 7 「教育碑の管理状況」

（基 N=193/調査時工事による未確認2基を除く）

区 分	管理者明確	敷地所有者等による管理	管理者不明	計
良好／普通	100 (85.5%)	36 (83.7%)	19 (57.6%)	155 (80.3%)
不良	17 (14.5%)	7 (16.3%)	14 (42.4%)	38 (19.7%)
計	177 (100%)	43 (100%)	33 (100%)	13 (100%)

行幸所上京第二十九組小学校碑」〔A-408〕のように碑文の下部が地中に埋没しているもの、「佐久間象山寓居之址」碑〔A-144〕や軍学者「藤本鉄石寓居之址」碑〔A-145〕のように正面以外の三方が壁、看板等で囲まれ碑文の視認が不可能なもの、「綜芸種智院蹟」碑、「文章院聖堂御蹟」碑〔A-106〕、藤原惺窩「市原山莊跡」碑〔A-108〕のように旧蹟の正しい位置を示していないものなど、碑の存在意味が損なわれているものも少なくない。これらは、碑の管理が適切に行われているか否かを如実に示している。碑は、その建立以降、時日を経るにつれ管理者が次第に不明確となり、碑の所在地の公・私の敷地管理者などが事実上日常的管理を行うことになりがちである。

管理者の状況と碑の状況の関連をみると、当然ではあるが、Table 7のとおり、管理者が曖昧、不明になるにしたがい、不良な状態にある碑が多くなる傾向にある。特に、前述の市教育会、京都史蹟会等によって建立された碑は、その後の管理者が定まっておらず、一部を除き、適切な管理が全く行われていない状況にある。現状のままでは、一層の棄損、破却の可能性が高まることが憂慮され、早急な対処が望まれる。

5 おわりに

本稿において、京都市域に所在する教育碑に焦点をあて初めて実地調査・分析を行った結果、対象年代・建立時期・建立者・地理的分布・建立目的・機能の各側面について、全体傾向や特徴を明らかにすることができた。一方で、碑の管理状況については大きな課題があることも浮き彫りとなった。本稿をふまえ、一連の教育碑群が表象する京都の教育特性や教育的風土、今後の活用の在り方等について、さらに、考察を進め、別稿^[16]にまとめているのであわせて参照をいただきたい。

注

- [1] 本稿においては、現在の地方自治体としての京都市だけではなく、794年の平安建都以来、今日に至るそれぞれの時代における都市・京都を意味するものとして「京都」の用語を用いている。
- [2] 京都市HP「京都市内の文化財件数一覧」ページ番号5958
<http://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/page/0000005958.html> 2017.03.08 アクセス
- [3] 井若和久、上月康則、山中亮一、田邊晋、村上仁士 2011「徳島県における地震・津波碑の価値と活用について」土木学会論文集B2（海岸工学）Vol.67 No.2 2011.1_1261-1_1265
籠谷次郎 1997「戦後の忠魂碑・慰霊碑等について」歴史評論（329）1997-09 校倉書房 P.89-107.
- [4] 新村出編 2008「広辞苑（第6版）」岩波書店 P.109
- [5] 京都市歴史資料館 情報提供システム・フィードミュージアム京都「京都のいしぶみデータベース」
<http://www2.city.kyoto.lg.jp/somu/rekishi/fm/ishibumi/ishibumitop.html> 2017.04.18 アクセス
- [6] 日本に初めて市制が施行された明治22年、京都市をはじめ全国で39の市が誕生したが、東京市、大阪市、京都市の3都市は、政治的な重要性から、「市制特例」により自治権を制約され、独自の市長や市役所を持つことなく、京都府の直轄の下、市制がスタートした。（京都市HP京都市情報館「市政情報／市の概要紹介／京都市自治記念式典／自治記念日」
<http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000131449.html> 2017.09.04 アクセス
- [7] 岡直規 1999「特例市制運動下における都市社会教育の成立と展開」東京大学大学院教育学研究科紀要第39巻P.482
- [8] 京都市教育会 1932「京都市教育會沿革略」裏表紙
- [9] 京都市教育会 1915「京都史蹟標石建設計画並びにその推進記録簿」P.9-31（京都市文化市民局保管）
- [10] 注〔5〕前掲HP「人名・寺社・事項一覧／京都市教育会設置の碑」
https://www2.city.kyoto.lg.jp/somu/rekishi/fm/fmindex/zikou_frame.html 2017.03.23 ア

クセス

- [11] 松田万智子 2000「小西大東—忘れられた近代京都の文化人」京都府立総合資料館紀要28号 P.13-14
同 2003「小西大東 その三」京都府立総合資料館紀要31号P.37-39
- [12] 注 [5] 前掲HP「人名・寺社・事項一覧／京都史蹟会設置の碑」
https://www2.city.kyoto.lg.jp/somu/rekishi/fm/fmindex/zikou_frame.html 2017.03.23 アクセス
- [13] 中村武生 2011「京都三宅安兵衛・清治郎父子建立碑とその分布」花園史学会（22）2001.11 P.68
- [14] 中村武生氏によると、三宅清治郎の回想「木の下陰」中に、「此の金を予が死後、京都の為め公利公益の事に使用せよ。是予が幼より故国を出て京都に來り今日迄恩沢を蒙りし御礼の意なり」との安兵衛の遺言が記述されているとのことである。（注 [13] 前掲書 P.67-68）
- [15] 「私塾とは主に江戸時代、民間の有識者によって開設された教育機関の事をいう。私塾は幕府や藩の統制を受けることなく塾主によって独自に経営され、その自宅を教場として用い、学問や文芸を門人に教授した。」（注 [5] 前掲HP「年表解説シート／京都の私塾」）
https://www2.city.kyoto.lg.jp/somu/rekishi/fm/nenpyou/sheetlist_frame.html 2016.11.21 アクセス
- [16] 生田義久 2018「京都市域に所在する『教育碑』についての総合的考察（二）～教育碑が表象する京都の教育特性、教育的風土～」佛教大学教育学部論集第29号

<参考文献>

- ・京都市教育会1932「京都市教育會沿革略」
- ・京都市学校歴史博物館・京都市教育委員会2006「京都学校物語」京都通信社
- ・京都市学校歴史博物館 2014「京都市学校歴史博物館紀要」第3号
- ・京都市教育1222年の軌跡編集委員会 2016「京都市教育1222年の軌跡」
- ・京都市教育委員会事務局調査課 1956「京都市立学校沿革」
- ・京都報道センター 1981「明治・大正・昭和 京都市立学校沿革史」
- ・京都府教育会1940「京都府教育史・上」
- ・衣笠安喜 1983「京都府の教育史」思文閣
- ・海原徹 1996「日本史小百科 学校」東京堂しゅっぱん

京都市域に所在する『教育碑』についての総合的考察（一） ―教育碑に関する実地調査結果とその分析―

【別添資料】「京都市域に所在する『教育碑』目録」（概要版）

※「目録（全文）」は別途保管

NO	歴 傳	行政 区	対象 年代	種別	名称	碑文	形状 (cm) 高×幅× 奥行 ★印：石 柱形式の 碑	建立者	建碑 期日	碑状態 A：良好 B：普通 C：不良	管理者 A：明確 B：数地 所有者 C：不明	説明	所在地	調査 期日
A-1-01	○	03 中京	1 平安 794- 1177	1 教育機 関 1 中世 1 大学寮	【大学寮址】 碑	B101 北東面：「此附近大学寮址」／碑の西側、中京中学校の南側に説明板あり	★ 125 × 18 × 18	A2 京都市教育会／寄附者：柏木亀蔵	1915 年 大正 04 年 11 月	B	C／ 民地	平安京に 1 か所設けられた「大学寮」址を示す碑。大学寮は、平安京の南にあった四町（252 m 四方）規模の中央の官吏養成機関。今日の国立大学に相当する施設とも言われる。律令制の崩壊にともない徐々に衰退し 1177 年の大火で廃絶。	中、西ノ 京北聖町	2016/ 05/20
A-1-02	○	03 中京	1 平安 794- 806	1 教育機 関 2 大学 別曹	【弘文院址】 碑	A101 南面：「此附近 弘文院址」／東面：「昭和三年六月 京都史蹟会引継」／西面：「大正六年三月建之 京都市教育会」	★ 132 × 19 × 19	A2 京都市教育会	1917 年 大正 06 年 03 月	B	C／ 民地	平安初期に和気氏によって開かれた大学別曹「弘文院」址を示す碑。大学別曹の中で最古。大学別曹は当初、大学寮学生の寄宿舎として始まったが、後、大学寮の付属機関として公認され大学別曹となる。各貴族の子弟に対する学問所としての役割を果たした。／昭和 3 年 6 月京都史蹟会に引継	中、御池 通千本東 入北側	2016/ 05/20
A-1-03	○	03 中京	1 平安 871-	1 教育機 関 2 大学 別曹	【勤学院址】 碑	A102 西面：「従是東北 勤学院址」／南面：「昭和三年六月京都史蹟会引継」／北面：「大正六年三月建之」	★ 120 × 18 × 18	A2 京都市教育会	1917 年 大正 06 年 03 月	B	C／ 民地	藤原氏によって開かれた大学別曹「勤学院」址を示す碑。821 年藤原冬嗣（775～826）が創設し、871 年ごろ大学別曹となる。／昭和 3 年 6 月京都史蹟会引継	中、西ノ 京勤学院 町	2016/ 05/20
A-1-04	○	03 中京	1 平安 900-	1 教育機 関 1 中世 2 大学 別曹	【奨学院址】 碑	A103 西面：「従是西北 奨学院址」／南面：「昭和三年六月京都史蹟会【以下埋没「引継」カ】」／北面：「大正六年三月建之京【以下埋没「都市教育会址」カ】」	★ 75 × 18 × 18	A2 京都市教育会	1917 年 大正 06 年 03 月	C／下 部が市 中に埋 没	C／ 民地	在原氏によって開かれた大学別曹「奨学院」址を示す碑。881 年、在原行平（818～93）が藤原氏の勤学院に倣って、その西の大学寮南に創建した。／昭和 3 年 6 月京都史蹟会引継	中、西ノ 京南聖町	2016/ 05/20
A-1-05	○	05 南	1 平安 828- 830	1 教育機 関 1 中世 3 その他	【綜芸種智 院蹟】碑	B 102 西面：「綜芸種智院蹟 天長五年 空海僧都 草創」／東面：「昭和三年十一月京京都三宅安兵衛遺志建之」／北面：「京都史蹟会建之」／横に由来を示す駒札あり	★ 130 × 19 × 17	C 三宅安兵衛遺志碑	1928 年 昭和 03 年 11 月	A	B／ 西福寺	空海（774～835）によって開かれた「綜芸種智院」址を示す碑。828 年に空海が藤原三守（785～840）の九条邸に開設した。我が国初の私立学校と言われる。身分上大学や国学に入れない者のため、内外典（仏書・儒書）を講じた。空海没後、廃絶。所在地は九条弘道小学校附近と考えられている。「三宅安兵衛遺志碑」の一つ。	南、西九 条池ノ内 町（西福 寺前）	2017/ 07/17
A-1-06	○	05 南	1 平安 833-	1 教育機 関 1 中世 4 1	【文章院聖 堂御蹟】碑 ／境内に 「菅公御誕 生之地」碑 あり	A104 東面：「文章院聖堂御蹟」	★ 156 × 30 × 28	記載なし ／吉祥院 天満宮	記載なし	B	B／ 吉祥院 天満宮	菅原道真（845～903）の祖父・菅原清公（770～842）によって、833 年に開かれた文章院聖堂跡を示す碑。文章院は、大学寮におかれた紀伝道（きでんどう）の教育機関であるが、大学寮が現在の二条城付近に位置したこと、文章院がこの地にあったことは考えにくく、菅原家の私的な学問所・聖堂と推察される。	南、吉祥 院政所町 3（吉祥 院天満宮 内）	2017/ 06/11
A-1-07	○	04 下京	1 平安 854-	1 教育機 関 1 中世 4 2	【菅家邸址 紅殿】碑	A105 南面：「菅家邸址 紅殿」／東面：「昭和十三年三月建之 京都市教育会」	★ 122 × 18 × 17	A2 京都市教育会	1938 年 昭和 13 年 03 月	B	C／ 民地	紅梅殿と称される菅原道真（845～903）の邸址を示す碑。道真は祖父・菅原清公が、門人の居室にあてていた書斎に就く廊下で始めた家塾「菅家廊下」を主宰して人材を育成した。	下、仏光 寺通西洞 院東入北 側	2017/ 06/18
A-1-08	○	07 左京	2 安土 桃山ノ 江戸 1593-	1 教育機 関 2 近世 私塾 5-01	藤原惺窩 「市原山莊 跡」碑	A106 南面：「此付近藤原惺窩市原山莊跡」／西面：「昭和四十五年三月京都市」	★ 106 × 19 × 19	A3 京都市	1970 年 昭和 45 年 03 月	C／公 園水飲み 場近く。 破損可能性	C／ 公園内	京学派の祖藤原惺窩（1561～1619）が隠棲した市原山莊跡を示す碑。最初の建立地は現在地より 100m 程東で、「史跡のいふみ」第 2 集には建立時の所在を「静海市市原町（小町園内）」と記されている。	左、静市 原町 （市原山 莊第一児童 公園内）	2017/ 07/09
A-1-09	○	03 中京	3 江戸 1607-	1 教育機 関 2 近世 私塾 5-02	【林道春邸 址】（駒札）	C 西面：「林道春邸址～（経歴等記載）～百足屋町町内会」	—	B6 百足屋町町内会	記載なし	C／碑の 所在不明	A	京出身の儒者・林道春（羅山 1587～1657）誕生の邸宅跡を示す駒札。近年まで石碑が建てられていたが、現在は失われ、駒札のみが百足屋町町内会によって設置されている。	中、新町 通錦小路 通上ル東 側	2017/ 06/18
A-1-10	○	03 中京	3 江戸 1628-	1 教育機 関 2 近世 私塾 5-03	松永昌三 「講習堂址」 碑	A107 西面：「松永昌三講習堂址」／東面：「寄附者 男爵三井」／北面：「大正五年九月建之 京都市教育会」	★ 105 × 18 × 18	A2 京都市教育会／寄附者：男爵三井	1916 年 大正 05 年 09 月	A	B／全 日空 H	京出身の儒者松永昌三（号 尺五 1592～1657）が開いた私塾「講習堂」址を示す碑。我が国最初の私塾とされる春秋館を開いた尺五が、1637 年に京都所司代 板倉重宗の援助を得て開設。講習堂と、伊藤仁斎の古義塾は、明治時代まで（講習堂は 1889 年まで 252 年間）受け継がれ、1842 年には京都の私塾の代表として幕府から表彰された。	中、東堀 川通二条 下る東側 （京都全 日空ホテ ル前）	2017/ 07/23
A-1-11	○	07 左京	3 江戸 1641-	1 教育機 関 2 近世 私塾 5-04	石川丈山 「旧蹟」（四 凸裏＝詩仙 堂）碑	B103 西面：「石川丈山翁旧蹟」／東面：「大正八年十二月建之」／横に詩仙堂の駒札あり	★ 98 × 26 × 16	記載なし ／詩仙堂	1919 年 大正 08 年 12 月	A	B／ 詩仙堂	石川丈山（1583～1672）が 1641 年一乗寺村に終の棲家として建てた四凸裏（詩仙堂）を示す碑。丈山は、1635 年に上洛し藤原惺窩の門に学び、一乗寺に庵を結び遁世した。その庵に、狩野探幽作の 36 人の詩人の像を掲げ詩仙堂と号す。	左、一乗 寺門口町 （詩仙堂 前）	2017/ 07/23
A-1-12	○	03 中京	3 江戸 1680-	1 教育機 関 2 近世 私塾 5-05	木下順庵 「邸址」碑	A108 北面：「此附近 木下順庵邸址」／東面：「大正五年五月建之 京都市教育会」／西面：「昭和三年六月京都史蹟会引継」	★ 117 × 17 × 16	A2 京都市教育会	1916 年 大正 05 年 05 月	C／西 面隣家 読み取 り不能	C／ 民地	木門派の祖、京出身の儒者木下順庵（1621～98）の私邸址を示す碑。順庵は、松永尺五に学び、1682 年幕府に登用され将軍綱吉の侍講となった。10 人の高弟は「木門十哲」と呼ばれ、伊藤仁斎の古義塾と相対していた。／昭和 3 年 6 月京都史蹟会引継	中、錦小 路通鳥丸 西入南側	2017/ 06/18
A-1-13	○	02 上京	3 江戸 1642-	1 教育機 関 2 近世 私塾 5-06	山崎闇斎 「邸址」碑	A109 西面：「山崎闇斎邸址」／北面：「中村六兵衛 寄附者 吉川福太郎」	★ 113 × 18 × 18	C 中村六兵衛／寄附者：吉川福太郎	碑に記 載なし	C／北・東 面隣家 読み取 り不能	C／ 民地	崎門派の祖、京出身の儒者山崎闇斎（1618～82）の私邸・塾址を示す碑。闇斎は、谷時中から朱子学を学び 1642 年以降、京都に居を構え、1655 年にこの地で塾（闇斎塾）を開き垂加神道を説いた。	上、霞屋 町通下立 売上る東 側	2017/ 07/17

A-1-14	○	02 上京	3 江戸 1662-	1 教育機関 2 近世 私塾 5-07	伊藤仁斎「古義堂附及び書庫」碑	B104 西面：「史蹟伊藤仁斎宅古義堂附並書庫」／南面：「史蹟名勝天然記念物保存法ニ依り大正十一年三月内務大臣指定」／北面：「大正十三年九月建設」／横に駒札あり	★147 × 24 × 24	A3 京都市	1924 年 大正 13 年 09 月	A	A	京出身の儒者・漢学者 伊藤仁斎（1627～1705）の私邸・塾「古義堂」址を示す碑。仁斎は、1662 年に自邸に古義堂と名付けた塾を開き講義を行い、堀川学校とも呼ばれ、堀川学派の拠点となった。1906 年まで 244 年間存続し、門下生は三千人を数えた。堀川通りを挟み山崎間斎の閑斎塾と相対した。	上、東堀川通下立上る東側	2017/07/23
A-1-15	○	03 中京	3 江戸 1686-	1 教育機関 2 近世 私塾 5-08	浅見綱斎「講学所（錦陌講堂）址」碑	B105 西面：「浅見綱斎邸址」／北面：大正五年五月建之京都市教育会／南面：金属板埋込により綱斎についての説明を後補	★116 × 18 × 18	A2 京都市教育会	1916 年 大正 05 年 05 月	A	C／民地	儒者浅見綱斎（1652～1711）の私邸・塾「錦陌（きんぱく）講堂」址を示す碑。綱斎は山崎間斎に入門、佐藤直方・三宅尚斎とともに崎門三傑といわれた。油小路に講舎を設けて研究と子弟の教授に勤めた。間斎死後の貞享3年頃「錦陌講堂」を錦通りに面した通りに開いた。	中、錦小路通高倉西入南側	2017/06/18
A-1-16	○	03 中京	3 江戸 1705-	1 教育機関 2 近世 私塾 5-09	並河天民「講学所堀木之舍趾」碑	A129 北面：「正五位 儒医並河天民講学所堀木之舍趾」／南面：「昭和四十一年一月八日建之 京都史談会」	153 × 25 × 24	B7 京都史談会	1966 年 昭和 41 年 01 月 08 日	A	C／民地	山城国紀井郡横大路村出身の儒者並河天民（1679～1718）の開いた講学所「堀木之舍」址を示す碑。天民は伊藤仁斎に学び、経世済民を重んじ儒医として活躍。仁斎没後（1705）この地に塾を開いた。仁斎没後の古義堂は東涯師事と天民師事とに二分されたという。	中、東堀川通丸太町上る東側	2017/07/17
A-1-17	○	02 上京	3 江戸 1806-	1 教育機関 2 近世 私塾 5-10	皆川淇園「弘道館址」碑	A110 南面：「皆川淇園弘道館址」／西面：「大正六年三月建之 京都市教育会」／北面：「寄附者 山田長左衛門」＊長右衛門（号永年）はこの地に隠宅を構えた富商で、詩人・書家・古典籍の蒐集家としても著名。	★108 × 19 × 19	A2 京都市教育会／寄附者 山田長左衛門	1917 年 大正 06 年 03 月	A	B／有斐斎弘道館	京出身の儒者皆川淇園（1734～1807）の私邸・塾「弘道館」（学問所）址を示す碑。淇園は、南学（折衷）派と呼ばれる独自の説を立て、1806 年自邸に私塾弘道館を開いた。門人は三千人を超えた。弘道館は、江戸時代全国に見られた学問所の一つで、京都の弘道館は、私立大学の先駆ともされる。2013 年公益財団法人「有斐斎弘道館」設立。	上、上長町通室町西入北側（「有斐斎弘道館」玄関横）	2017/06/10
A-1-18	○	07 左京	3 江戸 1843-	1 教育機関 2 近世 私塾 5-11	梅田雲浜「旧蹟（寓居跡）」碑	B 106 西面：「梅田雲浜先生旧蹟」／東面：「（建立趣旨、建立期日、建立者、発起人名）記載」	136 × 60 × 13	B4 「京都」若州人会発起人 5 名記名	1923 年 大正 12 年 11 月 23 日	C／がけ崩れフェンス設置	B／葉山観音	儒者梅田雲浜（1815～59）の一乗寺葉山観音内の寓居址を示す碑。雲浜は崎門学を学んで、京都の望梅軒の講主を迎えられた。のち浪人となり、困窮のなか、一乗寺葉山観音堂の堂守小屋に住み、江戸・水戸・大坂に自ら赴き、尊皇攘夷を唱えた。安政の大獄で捕えられ獄死。	左、一乗寺葉山町（葉山観音内）	2017/07/23
A-1-19	○	03 中京	3 江戸 1843-	1 教育機関 2 近世 私塾 5-12	梅田雲濱「邸址」碑	A130 西面：「梅田雲濱邸址」／北面：「大正五年九月建之京都市教育会」	★116 × 18 × 18	A2 京都市教育会	1916 年 大正 05 年 09 月	C／一部破損	C／歩道脇	儒者梅田雲浜の私邸址を示す碑。	中、烏丸通御池上る東側	2017/06/18
A-1-20	○	03 中京	3 江戸 1843-	1 教育機関 2 近世 私塾 5-13	中沼了三「講書之所」碑	B107 西面：「中沼了三先生講書之所」／北面：「竹間教育会」／背後に平成8年9月に、「烏根県隠岐国西郷町」中沼了三を讃える会」が作製した金属製説明板が設置されている。	★107 × 18 × 18	B7 竹間教育会	1930 年 大正 19 年 03 月 5 日	A	B／西町・郷講える会	儒者中沼了三（1816～96）の塾「講書之所」址を示す碑。三は、鳥根県隠岐国西郷町生れ、1836 年京都へ遊学、山崎間斎らに学び 1843 年にこの地に学舎を開いた。維新後も教育者として活躍し、元治元年孝明天皇の命により、大和十津川に文武館（現奈良県立十津川高等学校）を創設、初代教授に就任。明治2年明治天皇の待講。	中、烏丸通夷川下る東側	2017/07/07
A-1-21	○	03 中京	3 江戸 1729-1810	1 教育機関 2 近世 私塾 5-14	石田梅岩「心学講舎跡」碑	B108 西面：「此付近石田梅岩講舎跡」／右側に駒札あり	★98 × 15 × 15	B6 遊師屋町	2015 年 平成 27 年 03 月 19 日（除幕式）	A	A	亀岡出身の心学者石田梅岩（1685-1744）の私邸・講舎跡を示す碑。梅岩は 1729 年、自宅に講席を開き、聴講料を一切取らず、誰でも自由に聴講できる形で講義を始めた。そのわかりやすさから石門心学として広まった。	中、車屋町通御池上る東側	2017/06/18
A-1-22	○	03 中京	3 江戸 1737-	1 教育機関 2 近世 私塾 5-15	石田梅巖「邸址」碑	A111 西面：「石田梅巖邸址」／北面：「大正五年五月建之京都市教育会」	★124 × 18 × 18	A2 京都市教育会	1916 年 大正 05 年 05 月	A	C／民地	石田梅岩（1685～1744）が、1737 年に、最初の講義の地から移転して講席を開いた私邸の跡を示す碑。	中、堺町通五条上る東側	2017/06/18
A-1-23	○	03 中京	3 江戸 1765-	1 教育機関 2 近世 私塾 5-16	手島堵庵「五楽舎址」碑	A112 東面：「手島堵庵五楽舎址」／南面：「大正六年三月建之 京都市教育会」	★110 × 18 × 18	A2 京都市教育会	1917 年 大正 06 年 03 月	A	C／民地	京出身の心学者手島堵庵（1718～86）の心学講舎「五楽舎」址を示す碑。1765 年、隠居後の書斎としてこの地に住み講学の場とした。また幼児教育にも努め、「前訓」という手引書も著した。	中、富小路通六角上る西側	2017/06/18
A-1-24	○	04 下京	3 江戸 1773-	1 教育機関 2 近世 私塾 5-17	手島堵庵「石門心学脩正舎」碑	A113 西面：「石門心学脩正舎」／南面：「石門心学脩正舎」／右隣：朝日神明宮	★140 × 19 × 19	記載なし	記載なし	B	C／民地	心学者手島堵庵が開いた心学講舎「脩正舎」址を示す碑。脩正舎ははじめ東洞院松原にあったが、天明の大火等でたびたび焼失、移転を繰り返した。現在はこの石標のみであり、一般社団法人心学脩正舎が設立され活動再開	下、麩屋町通五条上る東側	2017/07/17
A-1-25	○	02 上京	3 江戸 1830-59	1 教育機関 2 近世 私塾 5-18	菅原友山「孝学堂址」碑	A114 西面：「孝学堂址」／東面：「昭和二年五月建之孝学堂協賛会」	★130 × 16 × 14	B4 孝学堂協賛会	1927 年 昭和 02 年 05 月	A	B／水火天満宮	孝学道人菅原友山（1791～？）が開いた「孝学堂」址を示す碑。孝学堂は、友山が、江戸時代の天保初年頃に水火天満宮内に設けた結社（教育施設）で、「孝行・孝道」を教えた。一時期は石門心学にも勝る活動を展開した。	上、堀川通上御堂前上る東側（水火天満宮内）	2017/07/23
A-1-26	○	11 伏見	3 江戸 1669-	1 教育機関 2 近世 私塾 5-19	荷田春満「旧宅」碑	B109 北面：「史蹟 荷田東満舊宅」／西面：「史蹟名勝天然記念物保存法ニ依り大正十一年三月内務大臣指定」／東面：「大正十三年九月建設」	★155 × 25 × 25	記載なし／東九神社？	1924 年 大正 13 年 09 月	A	B／東丸神社	国学者荷田春満（東満 1669～1736）の旧宅を示す碑。旧宅は神官荷田家歴代の居所で書院と門などが残る。	伏、深草敷之内町（伏見稲荷大社東丸神社）	2017/08/05
A-1-27	○	02 上京	3 江戸 1738-1779	1 教育機関 2 近世 私塾 5-20	富士谷成章「草宅跡」碑	A115 北面：「富士谷成章宅址」／東面：「大正六年三月建之 京都市教育会」／西面：昭和三年六月 京都史談会引継	★125 × 19 × 19	A2 京都市教育会	1917 年 大正 06 年 03 月	C／北面壁、西面フェンス視認難	B／林務事務所	国学者・歌人 富士谷成章（1738～79）の柳川藩邸内の邸宅跡を示す碑。成章は、京都に生まれ、号は北辺。皆川淇園の実弟。筑後柳川藩京都留守居の富士谷家を継いだ。	上、中立売通西洞院西入南側	2017/07/23
A-1-28	○	04 下京	3 江戸 1752-1759	1 教育機関 2 近世 私塾 5-21	本居宣長「修学之地（堀京山・武川幸順墓跡）」碑	B110 北面：「本居宣長先生修学之地」／東面：「堀京山・武川幸順の自宅位置、建立期日記載、先生百五十周年祭記念（建立者名記載）」／西面：「新村出撰文並書」記載	★123 × 18 × 18	B4 本居宣長翁遺蹟彰彰会	1951 年 昭和 26 年	C／西面壁視認不可	C／民地	国学者本居宣長（1730～1801）が修学した堀京山・武川幸順の塾跡を示す碑。宣長は国学の四大人の一人で鈴屋と号した。没後 150 周年記念。	下、綾小路通室町西入南側 寺町 143	2017/06/18

京都市域に所在する『教育碑』についての総合的考察（一） —教育碑に関する実地調査結果とその分析—

A-1-29	○	04 下京	3江戸 1801-	1教育機 関2近世 私塾5-22	本居宣長 〔講学旧地 (寓居址)〕 碑	A116 西面:「鈴屋大人偶講 学旧地」南面:「大正二年六 月九日■■■」/東面:「山上 忠啓建之」/北面:「徒五位 多村和興書	★71×21	C 山上忠啓	1913年 大正02 年06月 09日	A	C/ 民地	国学者本居宣長が講義を行った寓居址を 示す碑。宣長は二十代で京都へ留学した ことがあるが、最晩年の1801年に出生し、 京都在住の門人に講義を行った。	下、四条 烏丸南東 角長刀鐔 町10	2017/ 07/21
A-1-30	○	08 右京	3江戸 1760- 1806	1教育機 関2近世 私塾5-23	橋本経亮 〔宅址〕碑	A117 西面:「橋本経亮邸址」 碑/東面:「平成七年三月建 之」	★100×16	記載なし /梅宮大 社	1995年 平成07 年	A	B/ 梅宮大 社	国学者橋本経亮(1755～1805)の邸宅跡 地を示す碑。橋本経亮は、梅宮社の社家 に生まれ、梅宮社の正禰宜や宮中の非蔵 人をつとめた。	右、梅津 前田町 (梅宮大 社烏居 脇)	2017/ 08/06
A-1-31	○	02 上京	3江戸 1780- 1832	1教育機 関2近世 私塾5-24	頼山陽〔山 紫水明処〕 碑	A118 西面:「頼山陽 山紫 水明処」/北面:「寄付者 荒川益次郎」/東面:「大正 五年五月建之 京都市教育 会」	★116×19	A2 京 都市教 育会/ 寄付 者 荒 川益 次郎	1916年 大正05 年05月	A	B/ 頼山陽 旧跡保 存会	頼山陽(1781～1832)宅の書斎「山紫水 明処」を示す碑。山陽は、32歳で京都に 住まいし、1822年に三本木に屋敷を構え 「水西荘」と名付け詩会や茶会を催した。 1828年に書斎兼茶室を造営し、「山紫水 明処」と名付けた。	上、東三 本木通九 太町上る 東側	2017/ 07/07
A-1-32	○	02 上京	3江戸 1848-	1教育機 関2近世 私塾5-25	春日潜庵 〔邸宅址〕 碑	A119 北面:「春日潜庵先生 邸宅址」	★96×16	記載なし	記載なし	A	C/ 民地	陽明学者春日潜庵(1811～78)の私邸址 を示す碑。潜庵は、嘉永・安政頃、自宅 に塾を開き子弟の教育にあたった。安政 の大獄で捕えられ、江戸と京都で幽閉さ れた。晩年は教育に専念した。	上、烏丸 通一条上 三筋目 西入南側	2017/ 07/22
A-1-33	○	03 中京	3江戸 1824- 1891	1教育機 関2近世 私塾5-26	西谷洪水 〔善々塾跡〕 碑	A120 西面:「善々塾跡」/ 東面:「昭和47年3月 日彰 小学校建之」	★119×18	A8a 日 彰小学 校	1972年 昭和47 年5月 20日	B	C/ 民地	西谷洪水(貞圃1824～91)の私塾「善々塾」 跡を示す碑。洪水は、手跡指南所志軒 を宮む西谷家の8代目。1867年及び翌年 に小学校設立を和華行所、京都府に建言。 善々塾はその後、下京第四番組小学校(日 彰小学校)に発展。	中、高倉 通錦小路 上る東側	2017/ 06/18
A-1-34	○	03 中京	3江戸 1834- 1870	1教育機 関2近世 私塾5-27	〔教諭所(宣 教館)跡〕 〔駒札〕	C 南面:「教諭所(宣教館) 跡～(沿革記載)～京都市」	—	A3 京 都市	記載なし	A	A	京出身の儒者北小路梅莊(1765-1844)が 開いた「教諭所(宣教館)」跡を示す駒札。 幕末、京都の庶民教育機関であった教諭 所は皆川淇園門下の北小路梅莊が計画し、 1833年室町九田町下るに開校。給餌門の 戦いで焼失し東洞院三条西北角の当地に 再建	中、三条 通東洞院 西入北梅 忠町	2017/ 06/18
A-1-35	○	07 左京	3江戸 1768- 1843	1教育機 関2近世 私塾5-28	香川景樹 〔宅址〕碑	A 121 北面:「香川景樹宅 址」/東面:「大正六年三月 建之 京都市教育会」	★108×18	A2 京 都市教 育会	1917年 大正06 年03月	C/ 個人宅 敷地南 面壁視 認難	C/ 民地	歌人香川景樹(1768～1843)の邸宅跡を 示す碑。景樹は、上洛後香川景樹に入門、 養子となる。小沢蘆庵(1723～1801)に も指導を受け、この地に住し歌を教えた。	左、岡崎 東横/川 町	2017/ 08/04
A-1-36	○	07 左京	3江戸 1847- 1858	1教育機 関2近世 私塾5-29	梁川星巖 〔邸址〕碑	B111 西面:「梁川星巖邸址」 /北面:「大正五年五月建之 京都市教育会」/後に駒札 あり	★119×19	A2 京 都市教 育会	1916年 大正05 年05月	C/ 北面ブ ロック 堀近接 視認難	C/ 民地	漢詩人梁川星巖(1789～1858)の邸宅跡 を示す碑。星巖は、58歳の時上洛し、勤 王の志士らと接触。安政の大獄で捕らえ られる直前、コレラに罹り病死	左、川端 九太町上 る西側	2017/ 07/07
A-1-37	○	03 中京	3江戸 1834- 1913	1教育機 関2近世 私塾5-30	望月玉泉 〔居住地〕 碑	A 122 東面:「此辺画家望 月玉泉居住地」/西面:「昭 和五年三月 竹間教育会」	★104×18	B 7 竹 間教育 会	1930年 昭和05 年03月	A	C/ 民地	画家望月玉泉(1834～1913)の邸宅跡を 示す碑。玉泉は、幸野稚嶺(1844～95) と共に京都府画学校の創設に参加し、京 都画壇の復興に努めた。	中、室町 通二条下 る西側	2017/ 07/08
A-1-38	○	04 下京	3江戸 1786-	1教育機 関2近世 私塾5-31	山本亡羊 〔平安〕読 書室旧蹟〕 碑	A123 東面:「贈正五位 山 本亡羊読書室旧蹟」/南面: 「昭和六年八月」/北面:「京 都史蹟会建」	★170×18	B7 京 都史蹟 会	1931年 昭和06 年08月	A	B/ 読書室	本草学者山本亡羊(1778～1859)が開い た私塾「読書室」の跡を示す碑。亡羊は 葉草園を備えた読書室(学校)を開いて 門弟の養成にあたった。1864年の禁門の 変で焼失。読書室跡の土蔵に貴重な資料 約1万点を確認。	下、油小 路通五条 上る西側 (山本読 書室前)	2017/ 07/16
A-1-39	○	03 中京	3江戸 1867頃	1教育機 関2近世 私塾5-32	森寛斎〔宅 蹟〕碑	A124 西面:「勤王 画家 森 寛斎宅蹟」/東面:「寄附主 山本春拳 奥谷秋石」/南面: 「昭和四年六月 京都史蹟会 建」	★122×19	C 山本 春拳 奥谷秋 石/B 京都史 蹟会	1929年 昭和04 年06月	A	C/ 民地	長州出身の画家・森寛斎(1775～1841) の邸宅跡を示す碑。寛斎は西谷洪水の教 学(導)所設置の建議文にも名を連ねた。 京都史蹟会建碑であるが、寛斎に師事し た山元春拳等が寄附。	中、室町 通二条下 る東側	2017/ 07/08
A-1-40	○	03 中京	3江戸 1738-	1教育機 関2近世 私塾5-33	吉益東洞 〔宅蹟〕碑	A125 南西面:「名医 吉益 東洞宅蹟」/南東面:「昭和 四年一月」/北西面:「京都 史蹟会建」	★98×18	B7 京 都史蹟 会	1929年 昭和04 年01月	C/ 調査時 前面草 繁茂	B/ こども みらい 館	医学者吉益東洞(1702～73)の私邸址を示 す碑。東洞は、安芸出身で1738年、一家 で京都に移り、古医方をもって医者となっ た。日本近代医学中興の祖。	中、東洞 院通竹屋 町下る東 側(竹間 公園横)	2017/ 07/08
A-1-41	○	03 中京	3江戸 1799-	1教育機 関2近世 私塾5-34	小石元俊 〔究理堂跡〕 碑	B112 西面: 金属板プレ ット埋め込み「小石元俊 究理 堂跡～(沿革記載)～平成九 年一月 日本医師学会」	35×600 ×300	B5 日 本医史 学会	1998年 平成09 年01月	A	A	蘭学者・蘭方医小石元俊(1743～18 08)の医学塾「究理堂」跡を示す碑。元 俊は関以西の蘭学の祖。1799年医学塾「究 理堂」を開設、以来小石家は、代々医を なりわいとし今日に至る。	中、釜座 通竹屋町 下る下九 太町小石 医院前	2017/ 07/08
A-1-42	○	03 中京	3江戸 1839-	1教育機 関2近世 私塾5-35	新宮涼庭 〔居住地〕 碑	A126 西面:「此辺名医新宮 涼亭居住地」/東面:「昭和 5年3月 竹間教育会」	★111×18	B7 竹 間教育 会	1930年 昭和05 年03月	A	C/ 民地	蘭方医・新宮涼庭(1787～1854)の邸宅 跡を示す碑。涼庭は、1819年京都に出て 開業。1819年南禅寺畔に順正書院を作り 医学教育を行う。碑には涼亭とあるが、 涼庭が正しい。	中、室町 通竹屋町 下る東側 路地奥	2017/ 07/08
A-1-43	○	03 中京	3江戸 1834- 59	1教育機 関2近世 私塾5-36	橋本左内 〔寓居跡〕 碑	B113 西面:「橋本左内寓居 跡」/北面:「昭和四十三年 十一月 京都市」/横に駒札 あり	★97×19	A3 京 都市	1968年 昭和43 年11月	Z/ 調査時 工事中	Z	越前福井藩邸内の橋本左内(1834～59) 寓居の跡を示す碑。	中、東堀 川通二条 下る東側	2017/ 07/23
A-1-44	○	03 中京	3江戸 1811- 64	1教育機 関2近世 私塾5-37	佐久間象山 〔寓居址〕 碑	A127 西面:「佐久間象山寓 居之址」/北面:「京都市教 育会」/南面:「昭和三年六月」	★118×18	A2 京 都市教 育会	1928年 昭和03 年06月	C/ 西面以 外三方 に壁、櫓 看板	C/ 民地	佐久間象山(1811～64)の寓居跡を示 す碑。象山は、1864年3月幕命で上京し、 開国論を披歴した。同年5月象山最後の 住居であるこの地に移った。同年7月11 日暗殺された。	中、木屋 町通御池 下る東側	2017/ 07/21
A-1-45	○	03 中京	3江戸 1863頃	1教育機 関2近世 私塾5-38	藤本鉄石 〔寓居址〕 碑	A128 西面:「藤本鉄石寓居 之址」/北面:「京都市教育会」 /南面:「昭和三年五月」	★125×18	A2 京 都市教 育会	1928年 昭和03 年05月	C/ 三方壁、 自販機、 看板	C/ 民地	軍学者・藤本鉄石(1816～63)の寓居跡 を示す碑。鉄石は岡山藩を脱藩して上洛 し、軍学者として私塾を開いた。	中、御幸 町通三条 上る東側	2017/ 07/21
A-1-46	○	02 上京	3江戸 1847-	1教育機 関2近世 私塾6-1	〔学習院跡〕 〔駒札〕	C 西面:「学習院発祥の地 ～(沿革記載)～」	—	A7 環 境省	記載なし	A	A	京都に開かれた学習院跡を示す碑。学習 院は幕末の京都に設けられた公家教育 機関で、現在の学習院の前身。孝明天皇 在位中の1847年3月、京都御所の東側に 学問所の設置が実現し、講義が開始され た。	上、京都 御所東南 側	2017/ 06/10

A-1-47	02 上京	3 江戸 1864-	1 教育機関 2 近世私塾 6-2	山本覚馬「会津藩洋学所跡地」碑	B114 東面：「会津藩洋学所跡地」／南面：「平成二十四年九月建立」／横に説明板あり	★ 87 × 15 × 15	B8 長徳寺	2012年 平成 24 年 09 月	A	A／長徳寺	会津藩士砲術家 山本覚馬（1828-1892）が開いた洋学所跡示す碑。覚馬は、37歳の時、上京。1864年、長徳寺内に洋学所を開設。他藩士にも門戸を開放し、英学と蘭学を教えるなど京都に洋学の新風を起した。	上、西ノ通、院、通町上ル菊屋町 255（長徳寺）	2017/06/10
A-2-01	02 上京	4 明治 1869-1997	1 教育機関 3 近代小 01	元「成造小学校の碑」／上京第2番組小	B201 北面：「（校章）成造小学校の碑 明治二年（1869年）開校 平成九年（1997年）閉校」	56 × 80 × 30	A1 京都市教育委員会	1997年 平成 09 年	A	A	元京都市立成造小学校の開校。統合による閉校を記念する碑。／開校：1869年10月上京第2番組小／閉校：1996年度末、1997年4月西陣・桃園、聚楽小と統合し西陣中央小学校／跡地活用：北総合支援学校等	上、堀川通寺之内上ル2丁目下天神町（北総合支援学校）	2017/07/16
A-2-02	02 上京	4 明治 1869-19946	1 教育機関 3 近代小 02	元「桃園小学校・桃園幼稚園」碑／上京第11番組小	B202 東面：「構想桃園～桃園小学校 桃園幼稚園～（校歌）」／左横に「この石碑にはタイムカプセルが埋め込まれています」との石標あり	110 × 120 × 90	A1 京都市教育委員会	1997年 平成 09 年？	A	A	元京都市立桃園小学校・幼稚園の開校。統合による閉校園を記念する碑／開校：1869年7月8日上京11番組小。開校年数126年／開園：1934年4月／閉校園：1994年度末。1次統合で桃園西陣小、1997年4月成造、聚楽小と2次統合して西陣中央小学校に。1995年4月小川・中立幼稚園と統合し「みつば幼稚園」開園	上、大宮通今出川上ル親世町（西陣中央小学校内）	2017/07/16
A-2-03	02 上京	4 明治 1869-1995	1 教育機関 3 近代小 03	元「小川小学校・小川幼稚園」碑／上京第12番組小	B203 台座東面：「小川と太陽」／台座南面：平成14年5月設計・施工 石留石材／モニュメント北面：小川小学校 明治2年4月より平成7年3月、小川幼稚園 明治24年5月より平成7年3月千宗守	22 × 120 × 125の台座の上にオブジェ設置	A1 京都市教育委員会？	2002年 平成 14 年 05 月	A	A	元京都市立小川小学校・小川幼稚園の開校。統合による閉校園を記念する碑／開校：碑には明治2年4月とあるが正しくは同年10月1日上京第12番組小学校として開校／開園：明治24年5月／閉校園：平成6年度末。平成7年4月1次統合で小川中立小に。平成9年度新町小学校に2次統合／平成7年4月桃園・中立幼稚園と統合し「みつば幼稚園」／跡地活用：みつば幼稚園他	上、針屋町小川通元誓願寺上ル（みつば幼稚園南側）	2017/07/16
A-2-04	02 上京	4 明治 1869-1997	1 教育機関 3 近代小 04	元「出水小学校」碑／上京第14番組小	B204 南面：（前面）「飛翔薫風」／（後面）「出水校～校章～校歌」／北面（右側）：「平成十年十一月吉日竣工 京都市教育委員会 出水教育後援会」（左側）「沿革～年表形式で記載～」	22 × 150 × 90の台座の上に屏風型碑設置	B6 出水教育後援会 A1 京都市教育委員会	1998年 平成 10 年 11 月	A	A	元京都市立出水小学校の開校。統合による閉校を記念する碑／開校：明治2年10月6日上京第14番組小学校開校。昭和9年室戸台風により全校舎大被害／閉校：平成8年度末／平成9年4月待賢小学校と統合し二条城北小学校／跡地活用：二条城北小学校	上、浄福寺通下立売下の中（新町二条城北小学校内）	2017/07/16
A-2-05	○ 02 上京	4 明治 1869-1997	1 教育機関 3 近代小 05	元「中立小学校・中立幼稚園」碑／上京第16番組小	B205 南面：「永遠に輝く明日を求めて中立の子は羽ばたく」／北面：中立小学校の記。中立幼稚園の記を刻んだプレート／西面：「京都市長鈴木頼兼善 贈門標 中立幼稚園十四代 中立小学校十五代 榮吉左衛門 施工 芳村石材店」／東面：建立期日、建立者記載	100 × 30 × 100の台座の上に設置	B3 開校・閉校記念事業実行委員会	1997年 平成 09 年 04 月	A	A	元京都市立中立小学校・中立幼稚園の開校。統合による閉校園を記念する碑／開校：明治2年11月26日上京第十六番組小学校／閉校：平成6年度。平成7年4月1次統合し小川中立小、平成9年4月2次統合し新町小学校／開園：昭和7年5月5日／閉園：平成6年度末。平成7年4月中立・小川・桃園幼稚園が統合。「みつば幼稚園」開園。／跡地活用：新町小学校	上、中立元通新町角（新町小学校内）	2017/06/10
A-2-06	02 上京	4 明治 1872-2002	1 教育機関 3 近代小 06	元「滋野中学校統合記念碑」／上京第18番組小	B206 台座東面：（左側）「校章～京都市立滋野中学校統合記念碑 平成14年3月建之」（右側）「滋野中学校校歌～（歌詞記載）～中村利造作詞 大葉邦雄作曲」	30 × 80 × 60の台座の上にオブジェ	A1 京都市教育委員会	2002年 平成 14 年 03 月	A	A	元京都市立滋野中学校の開校。統合による閉校を記念する碑。／開校：明治2年10月10日上京第18番組小学校（のち小川小）。同19番組小学校（東泉小）開校。変遷を垂む。昭和23年滋野中学校／閉校：平成13年度末。平成14年4月上京中、京きつ探究館中に分割統合／跡地活用：平成19年1月「京都学びの街 生き方探究館」	上、西洞院通下立売辻 町東泰辻 町（京都きつ探究館内）	2017/06/10
A-2-07	03 中京	4 明治 1869-1995	1 教育機関 3 近代小 07	元「梅屋小学校」碑／上京第20番組小	B207 西面：「梅屋小学校の碑～（沿革記載）」／北面：「平成16年8月26日 京都市」	46 × 80 × （10～60）の台形	A3 京都市	2004年 平成 16 年 08 月 26 日	A	A	元京都市立梅屋小学校の開校。統合による閉校を記念する碑。／開校：明治2年11月21日上京20番組小学校として開校／閉校：平成6年度末。開校年数：126年。平成7年4月梅屋、竹間、富有、龍池、春日小とともに御所南小に統合／跡地活用：平成16年8月「京あんしんこども館」、平成17年4月「梅屋広場公園」	上、府庁前交差点東北角	2017/06/10
A-2-08	○ 03 中京	4 明治 1869-1993	1 教育機関 3 近代小 08	元「竹間小学校・竹間幼稚園」碑／上京第21番組小	B208 南西面：「竹間小学校、竹間幼稚園の碑～（小学校、幼稚園の沿革記載）～平成十三年三月 京都市教育委員会」／北東面：竹間幼、竹間小、竹間富有小の園歌・校歌等記載	61 × 120 × 行 45.5	A1 京都市教育委員会	2001年 平成 13 年 03 月	A	A	元京都市立竹間小学校・幼稚園の開校。統合による閉校園を記念する碑／開校：明治2年9月21日上京第21番組小学校。同8年竹間小に／閉校：平成4年度末。1次統合を経て平成7年度 梅屋・龍池・春日小学校と2次統合御所南小学校／開園：明治18年。昭和30年再開園／閉園：平成7年度末。1次統合を経て平成12年4月2次統合中京もえぎ幼稚園／跡地活用：こどもみらい館他	中、東洞院通竹屋町下る東園（竹間公園横）	2017/07/08
A-2-09	○ 03 中京	4 明治 1869-1995	1 教育機関 3 近代小 09	元「富有小学校」碑／上京第22番組小	B209 東面：「富有小学校の碑～（沿革記載）～京都市教育委員会」／南面：「平成九年十月吉日（校章） 富有自治連合会 富有同窓会」	71 × 80 × 30	B6 富有自治連合会・富有同窓会、京都市教育委員会	1997年 平成 09 年 10 月	A	A	元京都市立富有小学校の開校。統合による閉校を記念する碑／開校：明治2年10月16日上京第22番組小学校。同8年富有小学校／閉校：平成4年度末。平成5年4月竹間小学校と1次統合。平成7年度に梅屋・龍池・春日小学校との2次統合により御所南小学校／跡地活用：御所南小学校	中、富小路通竹屋町下る西側（御所南小学校横）	2017/07/08
A-2-10	03 中京	4 明治 1869-2002	1 教育機関 3 近代小 10	元「城巽校の沿革」碑／上京第24番組小	B210 東面：「城巽校の沿革～（明治2年から平成22年まで年表形式で記載）～平成二十二年四月 城巽自治連合会」	58 × 51 × 45	B6 城巽自治連合会	2010年 平成 22 年 04 月	A	A	元城巽小学校・城巽中学校の開校。統合による閉校等を記念する碑／開校：明治2年10月6日上京第24番組小学校。同年城巽小学校。以後変遷を重ね昭和22年城巽中学校／閉校：平成14年度末。1次統合を経て平成15年4月2次統合。京都御池中学校。平成18年複合施設「京都御池創生館」へ移転／跡地活用：平成22年4月 京都堀川音楽高等学校	中、堀川通押小路東入 南側（京都堀川音楽高校北側）	2017/07/31

京都市域に所在する『教育碑』についての総合的考察（一） —教育碑に関する実地調査結果とその分析—

A-2-11	03 中京	4 明治 1869- 1995	1 教育機 関 3 近代 組 小 11	元「龍池小 学校」碑／ 上京第 25 番組小	B211 東面：「たつひけの子 らはのびゆく」／東面台座の 右側に金属製説明板：「龍池 校の記～（所在地、位置、治 革を記載）～」／東面台座左 側に金属製説明板：「タイム カプセルの埋設について、立 期日、建立者記載」／西面：「龍 池校跡～（建立期日、建立者 記載）」	90 × 240 × 56	C 校区民一 同	1995 年 平成 07 年 03 月 25 日	C／視 認には 入館料 必要	A	元京都市立龍池小学校の開校。統合による閉校を記念する碑／開校：明治 2 年 11 月 1 日上京第 25 番組小学校。同 9 年龍池小学校／開校：平成 6 年度末。平成 7 年 4 月 竹間富有小・梅屋小・春日小と統合し御所南小に／跡地活用：平成 18 年 11 月京都国際マンガミュージアム。タイムカプセルを埋設し 30 年後（2025 年）に開封。	中、烏丸御池上がる金吹町（京都国際マンガミュージアム前）	2017/ 07/31
A-2-12	03 中京 区	4 明治 1869- 2006	1 教育機 関 3 近代 組 小 12	「初音学区、 元初音中 学校」碑／ 上京第 26 番組小	B212 西面：「翔びたとう初 音記念碑～（建立趣旨）～平 成十八年四月吉日建之」京都 市教育委員会 初音自治連合 会」／東面：揮毫は小峰鑑彰 氏。「翔びたとう初音」の名 称の趣旨・経緯を記載	82 × 102 × 25	B6 初音自治 連合会、 京都市教 育委員会	2006 年 平成 18 年 04 月	A	A	元京都市立初音中学校の開校。統合による閉校、初音学区の発展を記念する碑／開校：明治 2 年 8 月 17 日 上京 26 番組小学校。同 8 年初音小、昭和 22 年初音中学校／開校：平成 4 年度末。平成 5 年 4 月 柳池中（現京都御池中）に統合／跡地活用：京都市教育相談総合センター、洛風中学校、万華鏡ミュージアム、「初音の庭」	中、姉小路通東洞院東入農薬院門前町（ことば相談センターバトナ内）	2016/ 04/22
A-2-13	○ 03 中京	4 明治 1869- 1993	1 教育機 関 3 近代 組 小 13	元「柳池 小学校」（日 本最初小 学校）碑／ 上京第 27 番組小	B213 東面：「日本最初小 学校 柳池校 京都府知事植村 正直」／北面：建立期日・建 立者記載／西面：建立協賛者 553 人分記載／南面：（学校 の沿革記載）	86 × 121 × 31	C 柳池小 学校卒業 生有志一 同	1988 年 昭和 63 年 05 月 21 日		A	日本最初の小学校 元京都市立柳池小学校の開校。統合による閉校を記念する碑。創立 120 年記念。明治元年 9 月、種痘館を仮学舎として授業開始。同 2 年 5 月 21 日上京第 27 番組小学校として開校式挙行。昭和 22 年柳池中学／開校：平成 13 年度末。同 14 年 4 月 1 次統合、同 15 年 4 月 2 次統合で京都御池中／跡地活用：平成 18 年 4 月京都御池創生館	中、柳馬場通御池上る東側（京都御池創生館前）	2017/ 06/18
A-2-14	○ 03 中京	4 明治 1869- 1994	1 教育機 関 3 近代 組 小 14	元「本能小 学校」碑／ 下京第 2 番 組小	B214 東面：「本能校跡」／ 西面：「本能校史～（詳細な 沿革記載）～平成五年三月 二十五日 閉校の日」／横に 「区民の誇りの木」ソメイヨ シノあり	80 × 120 × 20	A1 京都市教 育委員 会？	1993 年 平成 05 年	A	A	元京都市立本能小学校の開校。統合による閉校を記念する碑／開校：明治 2 年 11 月 26 日下京第 2 番組小学校。明治 5 年本能小学校／開校：平成 4 年度末。平成 5 年 4 月明倫小と 1 次統合、平成 7 年 4 月高倉東小と 2 次統合高倉小に／跡地活用：堀川高等学校本能学舎、高齢者福祉施設	中、油小路通蛸薬師下る東側（堀川高等学校本能学舎横）	2017/ 07/16
A-2-15	03 中京	4 明治 1869- 1993	1 教育機 関 3 近代 組 小 15	元「明倫小 学校」開校・ 京都芸術 センター」 開設 碑／ 下京第 3 番 組小	B215 北面：「平成 5 年 3 月 京都市立明倫小学校開校 平 成 12 年 4 月京都芸術センター 開設」／芸術センター壁面に 創立百周年記念事業として建 立された「学校名由来記」の 説明板あり。	50 × 50 × 35	A3 京都市	2 0 0 0 年 平成 12 年 04 月？	A	A	元京都市立明倫小学校の開校。統合による閉校を記念する碑／開校：明治 2 年下京第 3 番組小学校。同 8 年明倫小／開校：平成 4 年度末。平成 5 年 4 月 1 次統合を経て同 7 年 4 月高倉東小と 2 次統合高倉小／跡地活用：平成 12 年 4 月京都芸術センター	中、室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2（京都芸術センター）	2017/ 07/24
A-2-16	○ 03 中京	4 明治 1869- 1994	1 教育機 関 3 近代 組 小 16	元「日影小 学校」碑／ 下京第 4 番 組小	B216 東面：「（校章）～ 日 影校記念の碑 1869 年（明治 2 年）6 月 20 日開校 1993 年（平 成 5 年）3 月 31 日開校～（校 歌歌詞記載）」／南面：「中田 勇次郎書」／北面：「平成八 年一月吉日建立 日影同窓会」	98 × 80 × 82	B2 日影同窓 会	1996 年 平成 08 年 01 月	A	A	元京都市立日影小学校の開校。統合による閉校を記念する碑／開校：明治 2 年 6 月 20 日東洞院三条に下京区第 4 番組小学校。同 9 年京都府知事植村正直が日影小学校と命名／開校：平成 4 年度末。同 5 年 4 月立誠小・生祥小と 1 次統合。同 7 年 4 月高倉西小との 2 次統合で高倉小／跡地活用：高倉小学校	中、高倉通六角下る西側（高倉小学校前）	2017/ 06/18
A-2-17	03 中京	7 平成 1995-	1 教育機 関 3 近代 組 小 17	「高倉小 学校開校記念 碑」	B 217 東面：「～開校に至 る経緯、建立期日記載～」／ 北面：「寄贈 立誠・生祥・ 日影・明倫・本能・初音・城 興各自自治連合会名記載」／南 面：「旧校章～（7 校の校名 と校章列挙）～企画者 彫刻 者 石匠 揮毫者等記載」	100 × 56 × 33	B6 立誠・生 祥・日影・ 明倫・本 能・初音・ 城興各自 自治連合 会寄贈	1995 年 平成 07 年 04 月 01 日	A	A	元立誠、生祥、日影、明倫、本能、初音、城興の元 7 校、7 学区の統合による高倉小学校の開校を記念する碑。	中、高倉通六角下る西側（高倉小学校前）	2017/ 06/18
A-2-18	○ 04 下京	4 明治 1869- 1982	1 教育機 関 3 近代 組 小 18	元「成徳尋 常小学校」 碑／下京第 9 番組小	B218 西面：（校章）「京都 市立成徳尋常小学校跡」／北 面：「明治二年新町通四条下 るに創立 明治九年空町通鏡 小路下るに移転」／東面：「昭 和五十七年八月 成徳自治連 合会有志建之」	114 × 17 × 17	B6 成徳自治 連合会有 志	1983 年 昭和 57 年 08 月	A	A	元京都市立成徳小学校の開校。統合による閉校を記念する碑／開校：明治 2 年下京第 9 番組小学校。同 9 年現在地に移転し成徳小。以後第一高等小学校等改称を重ね、同 22 年成徳中学校／開校：平成 18 年度末。平成 19 年 4 月下京区内 5 中学校が統合し下京中学校／跡地活用：下京中学校成徳学舎、京都文化協会、市民大学院	下、室町通鏡小路下る東側	2017/ 06/18
A-2-19	○ 04 下京	4 明治 1869- 1992	1 教育機 関 3 近代 組 小 19	元「豊園小 学校」碑／ 下京第 10 番組小	B219 南面：「豊園小学校の 碑～（沿革記載）～京都市教 育委員会／北面：「建立平成 七年九月吉辰」	61 × 70 × 53	A1 京都市教 育委員会	1995 年 平成 07 年 09 月	B／草 木繁茂	A	元京都市立豊園小学校の開校。統合による閉校を記念する碑／開校：明治 2 年 6 月 8 日下京第 10 番組小学校。同 8 年豊園小学校／開校：平成 3 年度末。平成 4 年 4 月に開智（永松）・有隣・修徳・格致小との統合により洛央小／跡地活用：洛央小学校	下、仏光寺通東洞院東入北側（洛央小学校前）	2017/ 06/18
A-2-20	04 下京	4 明治 1869- 1992	1 教育機 関 3 近代 組 小 20	元「開智小 学校・開智 幼稚園」碑 ／碑の上部 に「開智小 学校跡」下 部に「開智 幼稚園跡 の金属製説 明板」	B220 東面：上段「（校章） 開智小学校跡～（沿革記載）」 下段「（園章）開智幼稚園 園跡～（沿革記載）」	118 × 20 55 × 20 （銘板： 高 28 × 幅 50）	A1 京都市教 育委員会	1 9 9 2 年 平成 04 年/ 2017 年 平成 29 年 2 月 2 6 日 開智幼 稚園跡 銘板を 追加。	A	A	元京都市立開智小学校及び開智幼稚園の開・閉校を記念する碑／開校：明治 2 年 6 月 11 日、下京第 11 番組小学校。同 8 年開智小学校／開校：平成 3 年度末。平成 4 年度 5 校統合により洛央小学校／跡地活用：京都市学校歴史博物館／開園：明治 21 年 4 月 1 日下京第 11 番組小学校由来の下京第 13 尋常小学校に附設開園。同 26 年 4 月開智幼稚園／開園：平成 28 年度末	下、御幸町通仏光寺下る橋町 437（学校歴史博物館前）	2017/ 07/08
A-2-21	04 下京	4 明治 1869- 1983	1 教育機 関 3 近代 組 小 21	元「永松小 学校」碑／ 下京第 12 番組小	B221 南面：「元永松小学校 記念碑～（沿革記載）～開校 明治 2 年 9 月 27 日 連合国 軍接收 昭和 20 年 11 月 19 日 返還 昭和 25 年 4 月 24 日 復元開校 平成 25 年 9 月 1 日 閉校 昭和 58 年 3 月 31 日」	45 × 80 × 60	A1 京都市教 育委員会	1983 年 昭和 58 年 03 月	A	A	元京都市立永松小学校の開校。統合による閉校を記念する碑／開校：明治 2 年 9 月 27 日下京第 12 番組小学校。明治 8 年永松小学校。昭和 20 年 11 月 19 日連合国軍に接収アメリカンスクールに。昭和 25 年 4 月 24 日返還。同 9 月 1 日永松中学校として復元開校／開校：昭和 57 年度末。昭和 58 年 4 月開智小学校に統合。平成 4 年 4 月 5 校統合により洛央小／跡地活用：市総合教育センター	下、河原町通仏光寺西入（京都市総合教育センター敷地内の「永松会館」横）	2016/ 05/27

A-2-22	04 下京	4 明治 1869- 1992	1 教育機 関 3 近代 組 小 22	元「修徳小 学校」碑／ 下京第 14 番組小	B222 西面：「修徳小学校記念碑～（修徳学区・小学校の沿革記載）～平成十三年七月十三日 京都市 修徳自治連合会」	42 × 80 × 60	B6 京 都 市 修 徳 自 治 連 合 会	2001 年 平 成 13 年 07 月 13 日	A	A	元京都市立修徳小学校の開校。統合による開校を記念する碑／開校：明治2年5月京第14番組小学校。同年5月1日授業開始。元柳池小学校と同日の同21日に開校式典挙行。日本初的小学校の一。同7年修徳小学校。明治10年明治天皇ご臨幸／開校：平成3年度末。平成4年4月5校統合により洛央小学校／跡地活用：高齢者福祉施設、児童館、図書館	下。新町通万寿寺上る東側（修徳特別養護老人ホーム内）	2017/ 07/16
A-2-23	04 下京	4 明治 1869- 2006	1 教育機 関 3 近代 組 小 23	元「尚徳中 学校」碑／ 下京第 16 番組小	B223 南面：「（校章）尚徳中学校の碑～（学校沿革記載）」	35 × 80 × 61	A1 京 都 市 教 育 委 員 会	2007 年 平 成 19 年	A	A	元京都市立尚徳中学校の開校。統合による開校を記念する碑／開校：明治2年7月26日下京第16番組小学校。同10年尚徳小学校。昭和22年尚徳中学校。／閉校：平成18年度末。平成19年4月下京区5中学校統合により下京中学校／跡地活用：下京中学校	下。鍵屋町通室町西入（下京中学校前）	2017/ 07/16
A-2-24	04 下京	4 明治 1869- 1992	1 教育機 関 3 近代 組 小 24	元「菊浜小 学校」碑／ 下京第 18 番組小	B224 南面：「菊浜小学校の沿革 明治二年七月六日 下京第十八番組小学校（菊屋町に校舎落成）明治三十九年三月十七日 現位置（西高瀬上ノ口上カ）校舎新築落成。平成四年三月三十日 六条院小学校として統合」	72 × 85 × 30	A1 京 都 市 教 育 委 員 会	1992 年 平 成 04 年	A	A	元京都市立菊浜小学校の開校。統合による開校を記念する碑／開校：明治2年7月6日、下京第18番組小学校。明治39年3月17日菊浜の地に移転／閉校：平成3年度末。平成4年4月。稚松小との統合により六条院小学校。平成22年4月榎柳小・崇仁小との統合により下京渉成小／跡地活用：平成15年4月「人まち交流館京都」	下。西木屋町通上ノ口上る梅 湊 町（下京区5中学校前）	2017/ 08/05
A-2-25	04 下京	4 明治 1869- 2007	1 教育機 関 3 近代 組 小 25	元「皆山中 学校」碑／ 下京第 20 番組小	B225 西面：「（校章）皆山中学校の碑～（沿革記載）～」北側：「平成二十四年二月 京都市教育委員会」	45 × 80 × 60	A1 京 都 市 教 育 委 員 会	2012 年 平 成 24 年 02 月	A	A	元京都市立皆山中学校の開校。統合による開校を記念する碑／開校：明治2年10月26日下京第20番組小学校。明治10年皆山小。昭和22年5月5日皆山中学校／閉校：平成18年度末。平成19年4月下京区5中学校統合により下京中学校開校／跡地活用：平成22年4月 下京渉成小学校	下。皆山町（下京区小学校内）	2017/ 07/22
A-2-26	06 東山	4 明治 1869- 2010	1 教育機 関 3 近代 組 小 26	元「六原小 学校」碑／ 下京第 28 番組小	B226 東面：「つくるよろこび～（沿革記載）～」下。下部に校歌を刻む	103 × 73 × 18 ／自然石 に金属板 埋込	A1 京 都 市 教 育 委 員 会	2011 年 平 成 23 年	A	A	元京都市立六原小学校の開校。統合による開校を記念する碑／開校：明治2年9月11日下京第28番組小学校。明治9年六原小学校／閉校：平成22年度末／跡地活用：平成23年4月5小学校2中学校統合により小中一貫教育校「開晴小・中学校」が洛東中跡地に開校。元六原小跡地には、同第二教育施設「六原学舎」開設	東。松原東大和路東入2丁巨輪崎町82（六原学舎横）	2017/ 08/01
A-2-27	06 東山	4 明治 1869- 2010	1 教育機 関 3 近代 組 小 27	元「修道小 学校」碑／ 下京第 30 番組小	B227 西面：「（校章）修道小学校の碑～（沿革記載）～」北側：平成十七年三月十日 京都市教育委員会	65 × 80 × 50	A1 京 都 市 教 育 委 員 会	2005 年 平 成 17 年 3 月 10 日	A	A	元京都市立修道小学校の開校。統合による開校を記念する碑／開校：明治2年11月11日下京第30番組小学校。同18年修道小学校／閉校：平成13年度末。同14年4月貞教小との統合により東山小学校。同23年4月5小学校2中学校統合により小中一貫教育校「東山開晴小・中学校」跡地活用：白河総合支援学校東山分校を経て同28年4月「東山総合支援学校」	東。東大路通渋谷下ノ妙法院前側町（東山総合支援学校内）	2017/ 08/01
A-2-28	04 下京	5 大正 1913- 1996	1 教育機 関 3 近代 組 小 28	元「大内小 学校」碑	B228 南西面：「中央に（校章）大内小学校の碑（縦書き）～右側に学校沿革史。左側に校歌歌詞を刻む」	92 × 120 × 33	A1 京 都 市 教 育 委 員 会	1996 年 平 成 08 年	A	A	元京都市立大内小学校の開校。統合による開校を記念する碑／開校：明治5年9月14日 葛野郡第三区東寺廻村小開校。変遷を重ね、同19年現在地に移転。大正2年大内尋常小学校／開校：平成7年度末。平成8年4月 安寧小学校と統合し梅小路小学校／跡地活用：梅小路小学校	下。観喜寺町（梅小路小学校 玄 関横）	2017/ 07/16
A-2-29	07 左京	4 明治 1874-	1 教育機 関 3 近代 組 小 1	「北白川小 学校開校の 地」碑	B229 西面：上部に「北白川小学校開校の地」。下部に学校沿革を記載した石板貼付／南面：校訂者、石匠、揮毫者記載）／東面：（建立者名記載）	50 × 73 × 20 ／二段の台 座の上に 設置	B3 北 白 川 小 学 校 創 立 百 周 年 記 念 委 員 会	1976 年 昭 和 51 年 10 月	A	B／ 乗 願 院	北白川小学校の開校の地を示す碑。明治7年2月10日京都府安部郡白川村立白川小学校として乗願院南側の毘沙門堂を借りて開校。同10年10月北白川天神宮の西側（字仕伏）に移転。大正7年白川村が京都市に編入上京区第29学区北白川尋常高等小学校と改称。昭和22年北白川小学校。	左。北白川伏見町（乗願院前）	2017/ 07/17
A-2-30	07 左京	4 明治 1875-	1 教育機 関 3 近代 組 小 2	「大原小 学校創立 跡」碑	A201 西面：「大原小学校創立跡 明治八年五月二十八日」	79 × 19 × 12	記載なし	記載なし	C／管 理状態 極めて 不良	C／ 民 地	大原小学校創立の地を示す碑。明治8年5月28日、大原の戸寺、井出、上野、野村、大長瀬、草生、来迎院、勝林院の八カ村の共立学校「大原小学校」として開校。明治35年、現在地（大原来迎院町）に移転した。	左。大原大長瀬町（左京消防署大原出張所横）	2017/ 07/23
A-2-31	11 伏見	4 明治 1901-	1 教育機 関 3 近代 組 小 3	「下鳥羽小 学校跡地」 碑	B230 西面：「（学校沿革記載）」／東面：「創立110周年を記念して建立 昭和61年11月1日 下鳥羽小学校育友会」	52 × 70 × 21	B2 下 鳥 羽 小 学 校 育 友 会	1986 年 昭 和 61 年 11 月 1 日	C／フ ェ ン ス あり 視認難	A	下鳥羽小学校の旧校地を示す碑。明治9年下鳥羽村と中島村が連合して町として校舎が新築され、下鳥羽小学校として開校。同34年北ノ口町に移転。昭和6年京都市に編入。昭和9年室戸台風のため校舎が倒壊。児童に多くの死傷者がでた。昭和51年現在地に移転。創立110周年を記念して建立。	下。伏見区下鳥羽北ノ口町（伏見消防団下鳥羽分団）	2017/ 08/02
A-2-32	07 左京	4 明治 1902-	1 教育機 関 3 近代 組 小 4	「旧錦林第 二 小 学 校 跡」碑	B231 北面：「（校章）旧第二錦林小学校跡 昭和11年1月～昭和23年3月」／南面：「昭和53年6月建之 昭和17年卒業生一同」	35 × 49 × 7	C 昭 和 17 年 卒 業 生 一 同	1978 年 昭 和 53 年 06 月	A	A	元錦林第二小学校跡を示す碑。第二錦林小学校は、明治35年に錦林小学校の東側に開校。当初は、錦林と同一校区で、錦林には男児が、第二錦林には女児が通う。昭和11年に現在地（旧府立第一中学校跡地）に校舎完成。錦林と校区を分割し男女共学に。昭和23年に錦林・第三錦林・春日に校区を分割・併合。第二錦林小学校は閉校し、跡地に近衛中学校開校。	左。吉田近衛町（近衛中学校前）	2017/ 06/11
A-2-33	03 中京	4 明治 1875- 2000	1 教育機 関 3 近代 組 幼 園 1	元「柳池幼 稚園」（日 本最初の幼 稚園）碑	B232 西面：台座に「日本最初の幼稚遊嬉場（園章）京都市立柳池幼稚園記念碑開園 明治8年12月 閉園 平成8年3月」と記した金属板貼付／東面：「岡本潤三作 1963」	112 × 52 × 52 ／台座の上 に オ ブ ジェ	A1 京 都 市 教 育 委 員 会 ？	1996 年 平 成 08 年 03 月	A	A	元京都市立柳池幼稚園の開園。統合による開園を記念する碑／開園：明治8年上京第三十区柳池小学校内に「幼稚遊嬉場」開園。日本初の幼稚園。約1年半で閉園。昭和4年5月再開園／閉園：平成7年度末。平成8年4月仮統合を経て平成12年4月本統合。中京5園統合により中京もえぎ幼稚園／跡地活用：京都御池創生館	中。柳馬場通御池上る東側（京都御池創生館前）	2017/ 06/18

京都市域に所在する『教育碑』についての総合的考察（一） —教育碑に関する実地調査結果とその分析—

A-2-34	○	04 下京	4 明治1888-1992	1 教育機関3 近代幼稚園2	元「豊園幼稚園」碑	B233 南面:「京都市立豊園幼稚園記念碑」/東面:「建立 平成七年九月吉日辰/辛酉 一〇、四三七名」/西面:「開園 明治二十一年九月十六日/閉園 平成四年三月三十一日」	★123 × 18	A1 京都市教育委員会	1995 年 平成 07 年 09 月	A	A	元京都市立豊園幼稚園の開園、統合による開園を記念する碑/開園: 明治 21 年、豊園小学校内に「幼稚園小学」として設立。明治 5 年学制の下で幼稚園小学の名で制度化されたもので、京都では明治 21 年までに 10 校の小学校内に設置された。/閉園: 平成 3 年度末。平成 4 年 4 月開智幼稚園(当時)に統合。	下. 仏光寺通東洞院東入北側(洛央小学校前)	2017/06/18
A-2-35		03 中京	4 明治1891-2000	1 教育機関3 近代幼稚園3	元「城巽幼稚園」碑	B234 東面:「城巽幼稚園之碑」/西面:「跡地 開園 明治二十四年三月 閉園 平成八年三月 終了者総数 九五四三名 閉園事業委員会」	130 × 70 × 16	B3 閉園事業委員会	1996 年 平成 08 年	A	A	元京都市立城巽幼稚園の開園、統合による開園を記念する碑/開園: 明治 24 年/閉園: 平成 7 年度末。竹間・柳池・明倫生祥の各幼稚園との仮統合を経て、平成 8 年 4 月「中京もえぎ幼稚園」に本統合	中. 堀川通押小路東入南側(京都堀川音楽高校)	2017/07/31
A-2-36		07 左京	4 明治1870-	1 教育機関3 近代中学校1	元「京都府立京都第一中学校」碑	B 235 東面:「上部から(校章)、「自由」の文字を刻み、下部に旧校舎の風景を写したステンレス版を埋込」/西面:「京一中の校歌歌詞(1〜4 番)記載」/沿革を記した副碑あり	160 × 60 × 10	B2 京一中洛北高校同窓会寄付	2014 年 平成 26 年 12 月 06 日	A	A	元京都府立京都第一中学校(京一中)跡を示す碑。京一中は明治 3 年 12 月 7 日京都府中学校として開校。同 32 年京都府第一中学校と改称。以後変遷を重ね昭和 23 年 3 月閉校。同 25 年 4 月現洛北高校開校。	左. 下鴨梅ノ木町 59(京都府立洛北高等学校内)	2017/08/04
A-2-37	○	09 西京	6 昭和1941-	1 教育機関3 近代中学校2	元「京都府立京都第五中学校」碑	B236 台座の上にモニュメント式の正碑設置。西面: 上部に(校章)/東面:「花」の草体/正碑前に沿革を記した副碑あり「京都府立京都第五中学校 略史〜(沿革記載)〜平成十四年(二〇〇二年)八月吉日 京五中同窓会建立」	230 × 90 × 60	B2 京五中同窓会	2002 年 平成 14 年 08 月	A	A	元京都第五中学校を記念する碑。第五中学校は、昭和 16 年 4 月に府立第二中学校内に開校。同年 10 月現在地に移転。昭和 22 年新学制により京都市では独立した中学校を 11 校設けその他は小学校と旧制中学校に併設する措置をとった。京都第五中学には上桂中学(現桂中学)が併設され、翌昭和 23 年中学の生徒は第三中学校に移り京都府立桂高校が開校。同年 10 月閉校。	西. 上桂森上町(桂中学校校門横)	2017/08/02
A-2-38	○	02 上京	4 明治1874.07-02.	1 教育機関4 中学校3	「京都慶應義塾」碑	B237 東面:「独立自尊 明治七年 京都慶應義塾跡」/西面: 沿革を記した青銅板の碑誌を下部に埋込。「独立自尊 福沢先生 墨蹟放大/慶應義塾長 林毅隆 撰文并題〜(沿革記載)〜昭和七年十一月廿七日 京都慶應倶楽部建之 山本**書 龍文堂安太郎刻/北面: ペン先を交差させた校章レリーフ	166 × 273 × 62	B2 京都慶應倶楽部	1932 年 昭和 07 年 11 月 27 日	B/草木繁茂	A	京都慶應義塾跡を示す碑。明治 7 年 2 月、福沢諭吉(1835〜1901)により、東京の慶應義塾の分校として「京都慶應義塾」が現在の京都府参事横村正基(1834〜96)の略版により京都府中学校の一部を借りて開設。諭吉の高弟荏田平五郎が経営に当たり英学や算術などを教授したが、同年 9 月廃校。	上. 下立売通(京都府庁内)	2017/06/10
A-2-39		02 上京	4 明治1876-	1 教育機関4 中学校4	「同志社英学校 第二寮跡」碑	A 202 正面:「1876 第二寮跡 MOKADA」	63 × 93 × 9 レンガ敷の上に傾けて設置	B1 同志社大学?	記載なし	A	A	同志社英学校の第二寮跡を示す碑。新島襄は、山本竜馬と同志社を結成し、明治 6 年 11 月 29 日高松保実の屋敷の一部を借り同志社英学校(現同志社大)を開校。翌年、竜馬から薩摩藩邸跡(現今出川キャンパス)の元買収地を受け移転。当初は、木造建築 2 棟(第一寮、第二寮の 1 階を教室、2 階を寄宿舎として利用)と食堂棟。第二寮は「自貢の枕」事件の場として有名。	上. 玄武町 601(同志社大学今出川キャンパス・クラーク記念館南側)	2017/06/10
A-2-40		02 上京	4 明治1896-	1 教育機関3 近代中学校5	同志社中学校「立志」碑	B 238 北面:「立志」/南面:「同志社中学校 記念之碑」/北面に副碑あり:「立志の碑〜(沿革記載)〜2010 年 3 月 31 日 同志社中学校」/揮毫: 川瀬元同志社中学校長	132 × 146 × 40 自然石	B1 同志社中学校	2010 年 平成 22 年 03 月 31 日	A	A	同志社中学校の今出川キャンパスからの移転を記念する碑。同志社中学校は明治 29 年同志社尋常中学校として開校。昭和 18 年同志社中学校と改称。平成 22 年 4 月岩倉キャンパスに移転。	上. 玄武町 601(同志社大学今出川キャンパス)	2017/06/10
A-2-41	○	02 上京	4 明治1873-	1 教育機関5 盲学校1	「日本盲啞教育発祥之地」碑	A203 東面:「日本盲啞教育発祥之地」	★120 × 18 × 18	記載なし	記載なし	C/石碑欠け/民家ホース隣接	C/民地	元待賢小学校(旧地)内に設けられた日本最初の瘡癰教場跡を示す碑。明治 6 年上京第十九組区長熊谷伝兵衛が、隣家の聲啞姉弟の教育を待賢小学校に依頼。同 8 年同校教師古河太四郎(1845〜1965、初代校長)らが校内に教場を開き我が国最初の聲啞教育が始まった。同 11 年 2 月から盲生教育も開始。日本の盲啞教育発祥の地。	上. 猪熊通(堀川西)下立売下る西側	2017/07/17
A-2-42	○	03 中京	4 明治1878.11-05.	1 教育機関3 近代盲学校2	「日本最初盲啞院開学地」碑	B239 西面:「日本最初盲啞院開学之地」/東面: 未確認/南面:「古川太四郎の六男進■立」/北面:「明治十一年五月二十四日於此地開業」	★153 × 22 × 19	C 古河進(古河太四郎の六男)	記載なし	C/マンショ敷地内奥に所在視認難	C/民地	日本最初の京都盲啞院の跡を示す碑。明治 11 年 5 月 24 日、待賢小学校内の瘡癰教場が、東洞院押小路下に移転し、旧生糸会改所を仮校舎として我が国初の「盲啞院」が開校。翌年府立学校となり、府庁前に移転。大正 14 年まで人件費以外は、すべて寄附金に頼り府市民や皇族の慈善により維持。	中. 東洞院通押小路下る東側	2017/07/21
A-2-43	○	02 上京	4 明治1879.12-09.	1 教育機関3 近代盲学校3	「日本最初盲啞院創建之地」碑	B240 北面:「日本最初盲啞院創建之地」/西面:「明治十二年九月十二日創建 京都府教育委員会委員長山田忠男書之」/東面:「昭和四十三年五月二十四日 創立九十周年記念京都府立盲学校 聾学校同窓会建之」	★170 × 17 × 17	B2 京都府立盲学校聾学校同窓会	1968 年 昭和 43 年 05 月 24 日	B	B/第二日赤	府庁前に移転後の府立盲啞院跡を示す碑。わが国最初の盲啞院が、現在の京都府庁前に移転。京都府の所管となり、1879 年 9 月 12 日に日本最初の公立盲学校・聾啞学校「府立盲啞院」が開校した。京都府立盲学校、聾学校創立 90 周年を記念し建立。	上. 釜座通丸太町上る東側(京あんしんこども館前)	2017/06/10
A-2-44	○	02 上京	4 明治1872.04-14.	1 教育機関6 女子教育1	「女紅場址」碑	B241 北面:「本邦高等女学校之産駒 女紅場址 従是西九十三米 南九十米」/東面:「昭和七年十月」/南面:「為母校創立六十周年建之 京都鴨沂会」/西面:「女紅場」京都府立第一高等女学校創立当初ノ名称ニシテ明治五年四月十四日旧九条家河原殿ニ開設セル者ナリ	★150 × 31 × 31	B2 京都鴨沂会	1942 年 昭和 07 年 10 月	B	C/道路脇	「新英学校及女紅場」址を示す碑。明治 5 年 4 月 14 日、九条家河原町別邸内に「新英学校及女紅場」が設けられた。後の高等女学校の描藍。日本初の公立女学校と評される。英国人イーバンス夫妻を教師に招き、英学と女工(手芸・手工)の二科が置かれた。同 7 年に英女学校女紅場、のち京都府立京都第一高等女学校となる。	上. 丸太町通河原町東入南側(丸太町橋西詰)	2017/07/07

A-2-45	○	04	下京	4 明治1873.06.02	1 教育機関3近代女子教育2	島原「歌舞練場跡」碑	B242 西面：「歌舞練場跡記念碑」（沿革記載）～平成十三年十一月吉日 島原伝統保存会 男／宝暦のむかし 夢は見は見つけ 夜半の校節 聴くよしもなし／吉井男（歌人 1886～1960）」	172 × 105 × 17	B4 島原伝統保存会	2001 年 平成13 年11 月	A	A	「島原歌舞練場」跡を示す碑。島原歌舞練場は当初、島原女紅場といい、芸妓に判練・裁縫などを教え、遊里を離れても仕事ができることを目指して、1873年2月に上之町に設立された教育・勤業施設。1927年中之町に新築・移転し本格的な劇場施設となった。	下. 西新屋敷中之町（当初の女紅場は上之町にあった）	2017/08/05
A-2-46		02	上京	4 明治1902.04	1 教育機関3近代女子教育3	「京都女子手芸学校・橘女子高校跡」碑	B243 北面：左側に（校章）。右側に「橘のゆかし朝夕」／南面：「100年の歩み～（明治35年から平成14年まで年表形式で沿革を記載）～平成十四年五月二十一日 建立」／西面：「学園創立百周年記念」	61 × 118 × 20 × 60(台形)	B1 橘学園・高等学校	2002 年 平成14 年05 月21 日	C／裏面草木繁茂視認困難	A	現橘高等学校の前身である京都女子手芸学校跡を示す碑。明治35年5月中森孟夫により京都女子手芸学校開校。良妻賢母を旨とする当時の女子教育界にあって「自立した女性」をめざすユニークな学校であった。戦後「橘」の名を冠した女学校となり昭和60年伏見桃山に全面移転。創立100周年、京都橘女子大学開学35周年を機に建立。	上. 中立売通新町西入三丁目（フライングホテル北側）	2017/08/10
A-2-47	○	02	上京	5 大正1922.04	1 教育機関3近代女子教育4	「京都市立二条高等学校跡」碑	B244 北面：「（校章）旧京都市立二条高等学校校跡 此の花同窓会」／碑の前に沿革を記した説明板あり	160 × 180 × 40 自然石	B2 此の花同窓会	1980 年 昭和55 年	A	B／二条中学校	旧京都市立二条高等学校校跡を示す碑。大正11年4月に、京都市立第二高等学校が開校し、昭和3年4月、市立二条高等学校と改称しこの地に移転。昭和22年4月に学制改革によって付設中学校開校。翌23年4月二条高女の校舎を転用して二条中学校開校。同年10月に閉校。	上. 主税町（二条中学校内）	2017/07/24
A-2-48	○	03	中京	4 明治1900.04～	1 教育機関3近代高校他1	「京都市立商業実修学校跡」碑	B245 東面：「京都市立商業実修学校跡」／南面：「商友同窓会」／北面：「建立期日」記載／沿革を記した金属製説明板あり：「京都市立商業実習学校跡地～（沿革記載）～平成十二年十月 商友同窓会」	99 × 20 × 20	B2 商友同窓会	2000 年 平成12 年10 月	A	A	京都市立商業実修学校跡を示す碑。明治33年4月京都府立簡易商業学校が京都商業学校内に開校。翌年京都市に移管され京都市立簡易商業学校と改称。同40年2月市立商業実修学校と改称。以降変遷を重ね、昭和11年市立四条商業学校と改称された。昭和23年の新学制により商業学校廃止。	中. 富小路通二条上る西側（御所南小学校第二運動場前）	2017/07/08
A-2-49	○	03	中京	4 明治1912	1 教育機関3近代高校他2	「京都市立堀川高等学校専修夜間部跡」碑	B246 西面：京都市立堀川高等学校専修夜間部跡／東面：昭和五十九年九月吉日建之同窓生一同／南面：母校 市立商工補習（夜）学校 市立商工専修学校 市立専修高等学校 市立堀川高等学校専修夜間部／北面：明治45年4月15日創立 昭和54年4月1日統合	122 × 15 × 15	C 同窓生	1984 年 昭和59 年09 月	A	B／京御池中	京都市立堀川高等学校専修夜間部跡を示す碑。明治45年に前身の京都市立商工補習（夜）学校（明治45年創立）・市立商工専修学校が設置され、昭和10年には市立専修高等学校と変遷を重ねた。昭和23年、新学制による高校再編成で京都市立堀川高等学校が創設され、専修夜間部が設置されたが、昭和54年に廃止。	中. 柳馬場通御池上る東側（京都御池創生館前）	2017/06/18
A-2-50		11	伏見	6 昭和1930	1 教育機関3近代高校他3	京都府立桃山高等学校礼記念「桃陵文庫」記念碑	B 247 東面：「（桃陵文庫の沿革記載）～昭和五年一月丁酉 京都府立桃山中学校長從五位勳六等田中常憲撰」	120 × 70 × 20 自然石	C 元京都府立桃山中学校卒業生等寄付	1930 年 昭和05 年01 月	C／碑文読み取り困難	A	元京都府立桃山中学校（現桃山高等学校）内に昭和六礼を記念して設置された「桃陵文庫」を示す碑。「桃陵文庫」は、坪数75坪、工費8790余圓で、昭和4年9月竣工、12月竣工。	伏. 桃山毛利長門東町8（京都府立桃山高等学校内）	2017/07/27
A-2-51		02	上京	6 昭和1948	1 教育機関3近代高校他4	同志社商業高等学校「一粒の麦」碑	B 248 北面：「一粒の麦」（上野直蔵総長筆）／南面：「同志社商業高等学校の碑～右手に本を左手に職を持ち 図上に星を仰ぎつゝ 当校に育しも ついにその灯が消えるにあたり 卒業生二千余名の恩枝の念をここに刻す～」他建立者等	118 × 70 × 32 自然石	C 教職員一同、卒業生一同	1976 年 昭和51 年03 月	C／南面碑文読み取り困難	A	元同志社商業高等学校の開校を記念する碑。同志社商業高等学校は、昭和23年、主として勤労生徒のための夜間高校として開校。昭和51年閉校。「一粒の麦」は、聖書の一節「一粒の麦は地に落ちて死ななければ一粒のままである。だが、死ねば多くの実を結ぶ」（ヨハネによる福音書12：24）から引用。	上. 玄武町601（同志社大学今出川キャンパス 図書館横）	2017/06/10
A-2-52		07	左京	6 昭和1929	1 教育機関3近代高校他5	「同志社高商之跡」碑	B 249 東面：「同志社高商之跡 上野直蔵書」／西面：「昭和五十二年九月建之 同志社高商之跡建立委員会 平田忠二 實生政夫 大野實 牧達村上久／碑の前に由来を示す副碑あり：「（記念碑の由来／沿革／建立期日／建立者記載）」	200 × 110 × 30 自然石	B2 同志社大学商学部 樹徳会 同志社高商之跡記念碑建設委員会	1977 年 昭和52 年09 月	A	A	同志社高等商業学校の廃校30周年を記念する碑。同志社高商は、大正11年4月同志社専門学校高等商業部として誕生。昭和4年4月岩倉の新校地に移転し専用校舎・施設を得。同6年4月から、高等商業学校と改称。戦後の新学制の下で廃校。同24年4月に中学校と同居していた高校が岩倉へ移転。	左. 岩倉町89	2017/07/09
A-2-53	○	07	左京	4 明治1905	1 教育機関3近代高校他6	「大日本武徳会 武道専門学校」碑	B250 南面：「大日本武徳会 武道専門学校碑（第二十六回卒業生 鶴丸壽一書）」／北面：「（沿革／建立期日／建立者記載）」	286 × 225 × 103 自然石	C 大日本武徳会武道専門学校 雄刀術教員養成所 卒業生有志	1987 年 昭和62 年03 月	A	A	「大日本武徳会武道専門学校跡」を示す碑。桓武天皇（737～806）が平安京武徳殿で武技を奨励したことに因んで、明治28年平安神宮創設を機に、大日本武徳会が設立。明治38年、武術教員養成所が開校され、以降変遷を重ね武道専門学校に。昭和21年敗戦に伴い閉鎖。昭和58年武道センター本館建設等のため校舎撤去に伴い碑を建立。	左. 岡崎町順美町（京都市武道センター内）	2016/07/02
A-3-01	○	06	東山	4 明治1868	1 教育機関3近代大学01	「佛教大学建学之地」碑	B301 西面：「佛教大学建学之地」／東面：「由來之記～維持 昭和五十五年四月 佛教大学／題字 稲垣真我書／由來記 伊藤真徹書」	83 × 240 × 67 自然石	B1 佛教大学	1980 年 昭和55 年04 月	A	A	佛教大学建学地としての勤学場跡を示す碑。明治元年3月、浄土宗の教育機関として知恩院内に勤学場が開校。その後浄土宗専門学校と改称して百万遍に仮校舎が建てられたが、明治34年法然院内に移る。明治45年5月佛教専門学校と改称。昭和8年鷹ヶ峯の現佛教大の地に移転。昭和24年に現在の名称に。建学211周年記念し建立。	東. 林下院山（知恩院山門石側）	2017/07/29
A-3-02	○	03	中京	4 明治1872.05.09	1 教育機関3近代大学02	「療病院址」（本置町二条の仮療病院址）碑	A301 西面：「療病院址」／北面：「京都府立療病院は明治五年九月から全年十月までの付近で開設されていた」東面：京都府立医科大学八十周年記念事業委員会	★ 112 × 20 × 15	B3 京都府立医科大学創立八十周年記念事業委員会	1954 年 昭和29 年	A	A	京都府立医科大学附属病院の前身の本置町二条の仮療病院址を示す碑。蘭学医明石博高（1839～1910）らが資金を募って明治5年9月、本置町二条に仮病院を開設。11月に青蓮院に移転。同13年、仮病院から本院に発展。河原町広小路に開院。明治36年、京都府立医学校が京都府立専門学校（現京都府医科大学）に改組された時に同校の附属病院となった。	中. 御池通本置町東入北側（御池大橋西詰）	2017/07/07

京都市域に所在する『教育碑』についての総合的考察（一） —教育碑に関する実地調査結果とその分析—

A-3-03	○	06 東山	4 明治 1872-05.11	1 教育機関 3 近代大学 03	「療病院址」(青蓮院移転後の仮療病院址)碑	A302 北面:「療病院址」／東面:(療病院の青蓮院での沿革記載)／南面:(建立者名記載)	★ 118 × 22 × 22	B3 京都府立医科大学創立八十周年記念事業委員会	1954 年 昭和 29 年	C／青蓮院境内にあり入場料必要	A	青蓮院内に移転後の仮療病院址を示す碑。明治 5 年 11 月から同 13 年 7 月まで、青蓮院門跡の境内に開設。	東、栗田口三条坊町(青蓮院内)	2017/07/29
A-3-04	○	02 上京	4 明治 1880-	1 教育機関 3 近代大学 04	「療病院碑」	B302 西面:「療病院碑」【篆額】～(沿革記載)～明治十三年十二月 京都府知事横村正直 撰文／二品大勲位織仁親王篆額 京都府四等属中村勤 敬書」／東面:「岡野伝三郎 鐫」／副碑	250 × 143 × 64 自然石	B5 松本仁介医学振興基金により建立(京都府協力)	1880 年 明治 13 年 12 月	A	A	仮療病院が本院に発展し、明治 13 年に、現京都府立医科大学の地に開設したことを示す碑。京都府知事 横村正直の碑文には、「明治 7 年 10 月荒神口の現在地に土地を選定、明治 13 年 7 月に竣工し、経費は 59,311 円」との記述。	上、河原町通烏丸小路(京都府立医科大学内)	2017/08/05
A-3-05		02 上京	4 明治 1875-	1 教育機関 3 近代大学 05	同志社大学「良心碑」	B303 東面:「良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起り来ラン事ヲ」／西面:由來文「新島先生同志社大学運動中東京ヨリ在校の一学生ニ与ヘタル書簡中ノ一節ヲ録ス先生 永眠五十周年ニ際し追慕ノ余門生 胥讓シテ之ヲ先生故郷ノ産産産水石ニ勒ス」(徳富蘇峰)／金属製の説明板あり	364 × 39 × 33 確水石	C 確水郡原市の社友・半田善四郎が寄付。	1940 年 昭和 15 年 11 月 29 日	A	A	同志社の建学の精神「良心教育」の由来である新島襄の言葉を刻む碑。碑の名称はもと「新島先生記念碑」だったが、碑文に従って「良心碑」と称されるようになった。新島襄が、療養に励む東京から同志社普通学校 5 年生の横田玄止に送った手紙の一節を刻む。新島の教育理念を示す。永眠 50 周年に当り同志社創立 65 周年記念日に除幕。	上、今出川通烏丸東入玄武町(同志社大学内)	2017/06/15
A-3-06		02 上京	4 明治 1875-	1 教育機関 3 近代大学 06	同志社大学「寒梅碑」	A 303 南面:「真理似寒梅 散復風雪開」／北面:「1975 年 11 月 9 日 創立百周年記念 同志社中学校同窓会 徳村造園作製」	126 × 135 × 30 自然石	B2 同志社中学校同窓会	1975 年 昭和 50 年 11 月 09 日	C／碑文彫り浅く判読困難	A	新島襄が卒業生で元日銀総裁・深井五五に贈った詩を示す碑。碑文は「真理は寒梅のごとし。散えて風雪を侵して開く」の意。良心碑とともに新島の自筆を碑にした。同志社創立 100 周年記念で同志社中学校同窓会が設置。	上、今出川通烏丸東入玄武町(同志社大学内)	2017/06/10
A-3-07	○	01 北	4 明治 1899-	1 教育機関 3 近代大学 07	「京都工芸繊維大学繊維学部発祥之地」碑	B304 東面:「黄塵跡をとめざるこ、洛西の清き野に 精舎の如く おごそかに 聳えて立てる 学び舎や 京都工芸繊維大学 繊維学部発祥之地」／西面:(建立趣旨／建立期日・建立者記載)	120 × 196 × 34	B2 京都工芸繊維大学衣笠同窓会	1978 年 昭和 53 年 03 月	A	A	京都工芸繊維大学繊維学部の発祥地を示す碑。明治 32 年 6 月葛野郡衣笠村に農商務省所管の京都産業講習所創設、以降変遷を重ね昭和 19 年京都繊維専門学校、昭和 24 年学制改革により京都工業専門学校と統合し大学に昇格、京都工芸繊維大学繊維学部。	北、大將軍坂田町(花園地東北隅)	2017/06/11
A-3-08	○	02 上京	4 明治 1900-	1 教育機関 3 近代大学 08	「立命館草創の地」碑	B305 西面:「立命館草創の地 京都法政学校設立 1900 年(明治 33 年)5 月 19 日」／沿革を記した副碑あり:(沿革記載)～二〇〇〇年三月二十三日 学校法人立命館理事長 川本八郎」	130 × 100 × 42 自然石	B1 学校法人立命館	2000 年 平成 12 年 03 月 23 日	A	A	立命館大学草創の地である京都法政学校の仮校舎跡を示す碑。西園寺公望の秘書官中川小十郎(1866～1944)は、明治 33 年 5 月、法律・政治の二科を置く立命館大学の前身である私立京都法政学校を開校。科学清輝楼を仮校舎として 6 月 5 日から夜間授業が行われ、翌年 12 月、広小路河原町の新校舎に移転、大正 2 年に私立立命館大学と改称、同 8 年から現称に。	上、東三本木通丸太町上東園	2017/07/07
A-3-09	○	02 上京	4 明治 1900-	1 教育機関 3 近代大学 09	「立命館学園発祥地(京都法政学校発祥之地)」碑	B306 南面:中央に広小路学舎の写真を書いた金属板を埋込、その下部に「立命館学園発祥之地」を刻む。右下に小さな金属板埋込:「揮毫者の書家 今井凌雪(潤一)の経歴記載」／沿革を記載した副碑あり	159 × 503 × 20 製作 石 留石材	B1 学校法人立命館理事長 西村清次	1992 年 平成 04 年 05 月 19 日	A	A	立命館学園発祥の地、旧広小路学舎跡を記念する碑。中川小十郎によって創設された京都法政学校は、明治 34 年 12 月東三本木丸太町の仮校舎からこの地の新校舎に移転、西園寺公望の家塾・立命館の名称を受け継ぐ。昭和 56 年等持院北町に移転するまでの約 80 年間、10 万人余の卒業生を輩出	上、広小路河原町西入(府立医大図書館内)	2017/07/08
A-3-10		01 北	4 明治 1900-	1 教育機関 3 近代大学 10	「立命館 その由来の碑」	B307 北面:「妖壽不貳、修身以俟之、所以立命也」左下に立命館総長 長田豊臣による説明文／南面:(揮毫者・今井凌雪(潤一)の経歴記載)／南面前に副碑:建立期日、建立者記載	200 × 400 × 60 18t 花崗岩	B2 立命館大学教育後援会	2001 年 平成 13 年 春	A	A	「立命館」の由来を示す碑。「妖壽不貳、修身以俟之、所以立命也」は孟子 盡心章からとられている。立命館創始 130 年・学園創立 100 周年・立命館大学アジア太平洋大学開学を記念して建立。関西の代表的な黒系石材の一つ能勢黒石使用	北、等持院北町(立命館大学衣笠キャンパス内)	2017/06/11
A-3-11	○	01 北区	4 明治 1900-	1 教育機関 3 近代大学 11	「立命館大学理工学部発祥の地」碑	B308 東面:「立命館大学理工学部発祥の地～(理工学部の沿革、建立者、建立期日記載)」	71 × 201 × 13	B2 相訪会(理工学部校友の会)	1993 年 平成 05 年 11 月 23 日	A	A	立命館大学理工学部発祥の地を示す碑。理工学部の前身である立命館高等工学校は、京都大学構内の私立電気工学講習所を継承して昭和 13 年に設立。翌年、立命館日満高等工学校と改称し、等持院北町に移転。同 17 年に立命館大学専門学部工学科に昇格、同 24 年に新制理工学部。	北、等持院北町(立命館大学衣笠キャンパス内)	2017/06/11
A-3-12		01 北	6 昭和 1981-	1 教育機関 3 近代大学 12	末川博「未来を信じ未来に生きる」の碑	B309 東面:「未来を信じ未来に生きる 末川博」／碑の前に天野和夫総長名の説明板あり。同じ内容の文章が碑の裏面(西面)下部に刻まれている。	270 × 310 × 90 自然石	B1 立命館大学(天野和夫総長)	1981 年 昭和 56 年 5 月 19 日	A	A	立命館創立 80 周年と衣笠移転完成を記念する碑。末川博名誉総長の言葉「未来を信じ未来に生きる」が刻まれている。当時の天野和夫総長による説明文あり。	北、等持院北町(立命館大学衣笠キャンパス内)	2017/06/11
A-3-13		01 北	4 明治 1901-	1 教育機関 3 近代大学 13	大谷大学「知進守退」碑	A304 南面:「知進守退(わきに) 釈光演書」／北面:「(真宗大学の沿革と建碑由来記載)～撰文:南條文雄 書:東南家賢」／東面「工事請負者長谷川金太郎敬献碑」	300 × 100 × 35 自然石	B1 大谷大学／寄付者 長谷川金太郎	1913 年 大正 2 年現在地に移転建碑	B／裏面視認困難	A	大谷大学に一貫する理念「知進守退」を示す碑。大学の正門横にあり、雲龍大師「浄土論註」の言葉「知進守退」が刻まれている。1901 年、東京・巣鴨の地で真宗大学として開学した時に新築記念碑として建碑、1913 年「真宗大谷大学」として、現在地に移転・開学の折、本碑も移設。	北、小山田大谷大学内)	2017/07/22
A-3-14	○	01 北	4 明治 1905-	1 教育機関 3 近代大学 14	元京都府師範学校「志波無極碑」	B310 西南面:「志波無極碑」／東北面:「甲辰之歲征露役起戦連兩年我武雄揚因植極楓数千株於地境以為記念亦以寓育英之意焉耳 明治卅八年乙巳冬十一月 京都府師範職生員建」／東南面:「京都府金石寄付 森川音吉 刻」	130 × 80 × 36 自然石	C 京都府師範学校教職員生徒	1905 年 明治 38 年 11 月	C／裏面読み取り困難	A	京都府師範学校教職員・生徒等による賀茂川堤の植樹事業完了を示す碑。賀茂川堤の桜は京都府師範学校教職員・生徒、同附属小学校児童による植樹に始まる。明治 38 年 11 月 22 日に桜樹 2279 本・楓樹 735 本の植付けを完了し、12 月 2 日に桜楓樹植栽植付完了記念式挙行。	北、出雲路立子本町(出雲路橋西詰)	2017/06/11

佛教大学教育学部学会紀要 第17号（2018年3月）

A-3-15	01北	6昭和1965-	1教育機関3近代大学	京都産業大学「建学」碑	B 311 北面：「京都産業大学学歌 荒木俊馬 作詞（学歌歌詞 1～3番記載）」	140 × 180 × 70 石（重 25t 鞍馬石）	B1 京都産業大学	2001年平成13年01月25日	A	A	京都産業大学の建学の精神を表わす学歌を刻んだ碑。大学創建当時の面影を伝える本館前に、設置認可日（昭和40年1月25日）にちなんで建立された。京都ゆかりの鞍馬石で、薄紅色の岩肌に見え先生への作詞。墨跡により建学の精神を表す学歌が刻まれている。	北 上賀茂山（京都産業大学内）	2017/08/04
A-3-16	07左京	6昭和1968-	1教育機関3近代大学	京都精華大学「自由自治」碑	B312 西面：「自由自治」／横に副碑あり：1968年記の学長岡本清一の言葉を刻む	104 × 145 × 62 自然石	B1 京都精華大学	2005年平成17年？	A	A	京都精華大学の建学の理念である「自由自治」を刻んだ碑。京都精華大学は、昭和43年に政治学者であった初代学長岡本清一を中心につくった新しい大学の創造をめざすべく創立された。大学の建学の理念と言える「自由自治」の語が刻まれている。	左 岩倉木野町（京都精華大学内）	2017/08/04
A-3-17	07左京	7平成2013-	1教育機関3近代大学	京都造形芸術大学「藝術立国」碑	B313 西面：「藝術立国」の碑 宇宙の神秘に平伏せ 地球の偉大さに畏れを抱け 生きとし生ける命を愛し尊べ」／北面：建立期日記載／南面：「平和を希求する文明哲学の起こり来たらんことを願う 徳山評直」	200 × 100 × 30 インド産黒御影石製	B1 京都造形芸術大学	2013年平成25年05月13日	A	A	大学の基本理念の一つ「藝術立国」を刻んだ碑。墨跡は植松弘祥氏、インド産の黒御影製	左 北白川瓜生山 2-116（京都造形芸術大学内）	2017/08/04
A-3-18	○07左京	4明治1889-02-	1教育機関3近代大学	「第三高等学校基督教青年会館跡」碑	B314 南面：「第三高等学校基督教青年会館跡」／北面：「昭和五十七年八月 三高YMCA 関係者有志建之」／東面：（青年会館建設の経緯、沿革を記載）	★180 × 21 × 21	C 三高YMCA 関係者有志	1982年昭和57年08月	B	B／京大or民地？	第三高等学校基督教青年会館跡を示す碑。明治22年7月、第三高等学校の京都移転に合わせ、アメリカ人ギューリック指導のもと、第三高等学校 基督教青年会（YMCA）の同盟会が同25年から会館建設を計画し募金開始。同26年12月9日開館式開催。翌27年9月11日、「第三高等学校」並びに「基督教青年会」誕生。三高YMCA会館に。	左 吉田河原町	2017/06/11
A-3-19	07左京	4明治1894-06.23-	1教育機関3近代大学	「第三高等学校予科解散」碑	B315 南面：「明治二十七年改称第三高等学校日第三高等学校。在校生散学於四方者数百人。教官転任者亦不勝失。臨別植一樹於校門之東辺留焉。以爲紀念。相諺云無涯感慨付機杼豈得遺愛擬甘棠矣七月十日也。」	90 × 90 × 40 自然石	A 8b 第三高等学校？	1894年明治27年7月10日	C／碑文一部判読困難	A	明治27年の第三高等学校予科解散を記念する碑。明治22年9月11日、第三高等学校の大阪市から京都市・吉田に移転が完了し、開校式が行われた。同27年6月23日、第二高等学校に改組。三高には大学予科が置かれず、従来の高等学校の本科・予科は共に解散されることになり、学生たちは7月7日に分袂式を開いて京都を去ることとなった。	左 吉田本町（吉田キャンパス）	2017/06/11
A-3-20	07左京	4明治1889-03	1教育機関3近代大学	「紅もゆる丘の花」(三高寮歌「逍遙の歌」) 碑	B316 南西面：「紅もゆる丘の花 鹿太郎筆」／付近に三高同窓会が設置した副碑あり。	300 × 100 × 70 自然石（四国吉野川の緑泥片岩）	B2 三高同窓会・吉田神社	1957年昭和32年	A	A	三高の寮歌であった「逍遙の歌」を記念する碑。第三高等学校は、昭和25年に廃止されたが、大阪倉庫局に前身を持つ三高創立90周年を記念して碑を建立。寮歌は明治38年に制作。昭和32年4月2日に吉田神社・三高同窓会が協定書が締結され建碑が進められた。平成20年5月に歌詞、建立趣旨が記載された副碑建立。同25年3月20日三高同窓会解散時に京都大学に寄贈	左 吉田山	2017/08/05
A-4-01	○06東山	4明治1872-05.30-	1教育機関3近代大学	「明治天皇御小休所下京第二十七区小学校址」碑／A-4-02 碑と並立	B401 北面：「明治天皇御小休所下京第廿七区小学校址」／西面：「明治五年五月三十日御小休」／南面：「昭和十六年三月三十日京都府建之」	★154 × 37 × 37	A4 京都府	1941年昭和16年03月30日	A	B／公園	明治5年の天皇行幸休憩地「下京第27小学校（貞教校）」の旧地を示す碑。明治天皇（1852～1912）は明治5年5月30日に入京。伏見の旧本陣、藤森神社、京京第二十七区小学校で休憩し、京都府所に入った。京都には5月30日から6月4日まで滞在し各所を視察。	東 正面通本町東八南側	2017/07/29
A-4-02	○06東山	4明治1872-05.30-	1教育機関3近代大学	「明治天皇御小休所下京第二十七区小学校址」碑	B402 北面：「（建立趣旨）～昭和十六年五月三十日宮内省図書寮御用掛 従六位猪熊信男謹撰 京都市貞教国民学校長正七位勲七等植村久道恭寄」／南面：建立期日、建立者記載	140 × 65 × 22 自然石	C 貞教学区有志	1941年昭和16年06月	A	B／公園	「A-4-01」碑と同様、明治5年の天皇行幸休憩地「下京第27区小学校（貞教校）」の旧地を示す碑。京都府によりA-04-01碑が建立された約2か月後に貞教学区民により建立。	東 正面通本町東八南側	2017/07/29
A-4-03	○02上京	4明治1872-06.03-	1教育機関3近代大学	「明治天皇行幸所京都府中学址」碑	A401 東面：「明治天皇行幸所京都府中学址」／西面：「昭和十四年三月京都府建之」／北面：「明治五年六月三日行幸」	★184 × 27 × 27	A4 京都府	1939年昭和14年03月	C／樹木繁茂のため判読困難	B／元待賢小	明治5年の天皇行幸地「京都府中学」址を示す碑。明治5年の行幸で、京都府中学、新英学校女紅場等が視察された。6月3日には京都府中学で生徒200名の授業を視察。	上 猪熊通丸太町西側（旧待賢小学校）	2017/07/23
A-4-04	11伏見	4明治1877-10.02-	1教育機関3近代大学	「明治天皇御駐蹕之址」碑／伏見板橋小	B403 南面：「明治天皇御駐蹕之址 学習院長 荒木寅三郎書」／北面：（明治10年2月7日の天皇大和行幸、同月11日の英照皇太后 昭憲皇太后 宇治行啓の際の伏見第二小学校（現伏見板橋小学校）への立寄り）を示す碑。小学校創立六十年に当り、「永く御盛徳を偲び伏仰の至誠を表す」ため、その旧跡に碑が建立された。	180 × 120 × 60 自然石	B2 育英同窓会	1932年昭和7年11月01日	A	B／伏見板橋小	明治10年2月7日の明治天皇の大和行幸、同月11日の英照皇太后、昭憲皇太后の宇治行啓の際の伏見第二小学校（現伏見板橋小学校）への立寄り）を示す碑。小学校創立六十年に当り、「永く御盛徳を偲び伏仰の至誠を表す」ため、その旧跡に碑が建立された。	伏 下板橋町（伏見板橋小学校内前庭）	2017/08/02
A-4-05	○11伏見	4明治1877-10.02-	1教育機関3近代大学	「明治天皇御小休所旧伏見第二小学校」碑／伏見板橋小	A402 南東面：「明治天皇御小休所旧伏見第二小学校」／北西面：建立期日、建立者記載。北東面：「明治十年二月七日行幸」	★184 × 27 × 27	A4 京都府	1940年昭和15年03月	A	B／伏見板橋小	明治10年の天皇行幸休憩地「伏見第二小学校（現伏見板橋小）」を示す碑。A-4-04碑とは校内の別の場所に離れて設置。	伏 下板橋町（伏見板橋小学校内）	2017/08/02
A-4-06	○11伏見	4明治1877-05.10-	1教育機関3近代大学	「天皇御駐蹕址」碑	A403 西面：「天皇御駐蹕之址」／南面：「明治十年五月十日行幸」	★227 × 31 × 30	C 有志の士宅安兵衛	1928年昭和3年11月明治節日	A	B／明親小	明治10年の天皇行幸休憩地となった現在の「明親小学校」を示す碑。明治10年の関西行幸において、明治天皇は、5月10日石清水八幡宮に行幸、淀の現明親小学校で休憩した。碑には建立者は「有志」とあるのみだが、中村武生氏確認の「安兵衛遺志碑「237基」中に本碑も含まれている。	伏 伏見区 淀池上町106（明親小学校内校門横）	2017/08/02

京都市域に所在する『教育碑』についての総合的考察（一） —教育碑に関する実地調査結果とその分析—

A-4-07	○	04 下京	4 明治 1877-05.12	1 教育機関 3 近代 11 行幸	『明治天皇行幸之地』碑／下京第十四番組小元修徳小	B404 西面：「明治天皇行幸之地」／東面：「昭和四拾四年五月二日修徳百年祝賀会」／南面：「明治十年五月十二日」	★ 123 × 26 × 18	B3 修徳百年祝賀会	1969 年 昭和 44 年 05 月 02 日	A	B／修徳特養	明治 10 年の天皇行幸地「下京第 14 番組小学校（修徳小学校）」跡を示す碑。明治 10 年の関西行幸において、5 月 12 日、下京第 14 組小学校（修徳小学校）に行幸があった。同小学校は、明治 2 年 5 月に開校し日本で最初に授業が行われた学校の一つ。平成 4 年 4 月、統合により洛央小学校に。	下、新町通万寿寺上る東側（修徳特別養護老人ホーム）	2017/07/16
A-4-08	○	03 中京	4 明治 1877-06.28	1 教育機関 3 近代 11 行幸	『明治天皇行幸所上京第二十九組小学校』碑／元初音小	A404 南面：「明治天皇行幸所上京第廿九組小学校」【以下埋没】／北面：「昭和十四年三月京都府」／東面：「明治十年六月二十八日行幸」	★ 175 × 33 × 33	A4 京都府	1939 年 昭和 14 年 03 月	C／下部が地中に埋没	B／京都市こども相談センター	明治 10 年の天皇行幸地「上京第 29 組小学校（初音校）」跡を示す碑。5 月 12 日の修徳校視察の後、6 月 28 日には上京 29 組（初音）小学校・下京 24 組（尚徳）小学校のそれぞれに、上京、下京の児童を集めて授業視察が行われた。	中、東洞院通錦小路下る東側（修徳特別養護老人ホーム）	2016/04/22
A-4-09	○	04 下京	4 明治 1877-06.28	1 教育機関 3 近代 11 行幸	『明治天皇行幸所下京第二十四組小学校』碑／元尚徳小	B405 南面：「明治天皇行幸所下京第廿四組小学校」／西面：「明治十年六月二十八日行幸」／北面：「昭和十四年三月京都府建之」	★ 180 × 28 × 26	A4 京都府	1939 年 昭和 14 年 03 月	A	B／下京中	明治 10 年の天皇行幸地「下京第 24 組（尚徳）小学校」跡を示す碑。土掘と同じ、6 月 28 日、横村知事（1834～96）の先導で下京第 24 組（尚徳）小学校に行幸があった。当日は下京の 32 小学校から校長及び選抜された教師・生徒 280 人が集められていた。天皇は各教室を視察し、昼食をとって還幸した。	下、鍵屋町通室町西入北側（下京中学校前）	2017/07/16
A-4-10	○	04 下京	4 明治 1880-	1 教育機関 3 近代 11 行幸	『明治天皇御小休所本願寺旧大教校』碑／龍谷大学	A405 東面：「明治天皇御小休所本願寺旧大教校」／北面：「昭和十三年十月建設」／南面：「本史蹟名勝天然記念物保存法ニ依り昭和十二年七月三日文部大臣指定」と刻まれていた。	★ 190 × 25 × 25	B8 西本願寺	1938 年 昭和 13 年 10 月	A	A	明治 13 年の天皇行幸休憩地「本願寺（西本願寺）大教校」を示す碑。明治 13 年 7 月 20 日、京都府巡幸中の明治天皇は七条停車場（京都駅）から神戸へ向かったが、その前に本願寺（西本願寺）大教校で休憩した。本願寺大教校は龍谷大学の前身で、前年に開校。	下、大工町（龍谷大学正門前）	2017/08/01
A-4-11	○	02 上京	4 明治 1887-	1 教育機関 3 近代 11 行幸	『明治天皇行幸所京都府尋常中学校校址』碑	A406 西面：「明治天皇行幸所京都府尋常中学校校址」／東面：「昭和十四年三月京都府建之」／南面：「明治二十年二月一日行幸」	★ 174 × 27 × 27	A4 京都府	1939 年 昭和 14 年 03 月	Z／工事のため確認できず	Z／同左	明治 20 年の天皇行幸視察地「京都府尋常中学校」址を示す碑。明治天皇は、孝明天皇二十年祭のため、明治 20 年 1 月 26 日～2 月 21 日まで京都に滞在。2 月 1 日、京都府尋常中学校に行幸した。同校の前身は明治 3 年に創立された京都府中学。	上、寺町通瓦神口下る東側（鴨沂高校前）	2017/07/17
A-4-12	○	03 中京	4 明治 1910-	1 教育機関 3 近代 11 行幸	『東宮殿下行啓記念』碑	A407 西面：「東宮殿下行啓記念」／東面：「明治四十二年九月二十九日建之爲即位大礼記念」	★ 100 × 18 × 18	記載なし	1915 年 大正 4 年頃か？	A	B／堀川高校	明治 43 年の東宮殿下の京都市立高等女学校行啓を祈念する碑。大正 4 年 11 月 10 日の大正天皇即位大礼を記念として建立。市立高等女学校は行啓の 2 年前、明治 41 年に開校。大正 11 年に市立第一高等女学校、昭和 3 年に市立堀川高等女学校と改称され、昭和 23 年 4 月堀川高等学校に。	中、東堀川通錦小路上る四坊堀川町 622-2（堀川高校内）	2017/08/08
A-4-13	○	02 上京	5 大正 1924-	1 教育機関 3 近代 11 行幸	『皇后陛下行啓記念』碑／同志社女学校	B406 南東面：「皇后陛下行啓記念」／付近に副碑あり：南東面：「（建立趣旨）～昭和十三年十二月八日」	★ 220 × 48 × 47	B1 同志社	1938 年 昭和 13 年 8 月	A	A	大正 13 年の皇后行啓地「同志社女学校」を示す碑。貞明皇后（1884～1951）は、大正 13 年 11 月 28 日～12 月 10 日まで、京都に行啓し、京都高等女学校など市中の女学校を視察。12 月 8 日、同志社女学校を訪れ、午前 9 時 35 分から午後 2 時 30 分頃まで予定時間を超えて滞在し、教室や授業を見学した。	上、玄武町（同志社女子大学内）	2017/06/15
B-1-01	○	03 中京	2-1 室町 (15 世紀中頃)	2 業績発祥・団体 1 教育・文化 01	『いけばな発祥の地』碑	B501 東面：「いけばな発祥の地 六角堂頂法寺 華道家元 池坊 六角頂法寺管主 華道家元四十五代 池坊専永」／西面：「設計古畑多喜雄 1976」／碑の前に「池坊専永口伝」についての説明板あり	80 × 110 × 40	C 華道家元四十五代池坊専永	1976 年 昭和 51 年	A	A	六角堂頂法寺の地が「いけばな」発祥の地であることを記念する碑。15 世紀中頃から「いけばな」の名手として池坊を称す人物を確認できる。16 世紀前半の池坊専永が「いけばな」を確立。17 世紀初頭に専好が流派としての体裁を整えた。いけばな（華道）は伝統文化を後世に伝えるうえで学校教育において重要な役割を果たしており、学校華道が進められている。	中、六角通局丸東入（六角堂内）	2017/06/18
B-1-02	○	02 上京	2-2 安土山江 戸 1647-	2 業績発祥・団体 1 教育・文化 02	『千利休居士遺蹟 不審庵』碑	A501 西面：「千利休居士遺蹟 不審庵」／南面：「昭和十三年十一月」／北面：「京都史蹟会建」	★ 133 × 20 × 19	B7 京都史蹟会	1928 年 昭和 3 年 11 月	A	B／不審庵	利休ゆかりの表千家流家元の茶室「不審庵」を示す碑。茶室は伝統文化を後世に伝えるうえで、学校教育において重要な役割を果たしている。三千家等が存在する京都の特性を生かし、各学校では学校茶道が進められており、平成 17 年教員の自主的な教育研究会の一つ「学校茶道研究会」が発足。	上、小川通寺之内上る東側	2017/07/23
B-1-03	○	02 上京	2-2 安土山江 戸 1648-	2 業績発祥・団体 1 教育・文化 03	『千利休居士・千宗旦居士遺蹟 今日庵』碑	A502 西面：「千利休居士・千宗旦居士遺蹟 今日庵」／南面：「昭和十三年十一月」／北面：「京都史蹟会建」	★ 122 × 20 × 17	B7 京都史蹟会	1928 年 昭和 3 年 11 月	A	B／今日庵	利休・宗旦ゆかりの裏千家流家元の茶室「今日庵」を示す碑。父少庵（1546～1614）から不審庵を譲り受けた千宗旦（1578～1658）は、正保 3 年、同庵を千宗左（1613～72）に譲り、自身は北隣に今日庵を建てて隠居した。のち四男千聖が継ぎ、裏千家の基礎が確立。	上、小川通寺之内上る東側	2017/07/23
B-1-04	○	02 上京	2-2 安土山江 戸 1667-	2 業績発祥・団体 1 教育・文化 04	『千宗守居士遺蹟 官休庵』碑	A503 西面：「千宗守居士遺蹟 官休庵」／南面：「昭和十三年十一月」／北面：「京都史蹟会建」	★ 128 × 18 × 18	B7 京都史蹟会	1928 年 昭和 3 年 11 月	A	B／官休庵	千宗守ゆかりの武者小路流家元の茶室「官休庵」を示す碑。武者小路流は、千利休の孫宗旦の次男宗守（1593-1675）を祖とする。宗守が讃岐高松藩を辞して、茶室を造営したことに因んで「官休」庵と名付けられたと伝わる。	上、武者小路通小川東入北側	2017/08/04
B-1-05	○	03 中京	3 江戸 1754-	2 業績発祥・団体 1 教育・文化 05	『山脇東洋親蔵之地』碑	B502 西面：「日本近代医学のあけぼの 山脇東洋親蔵之地 1754・宝暦四年閏二月七日」／台座下部に建立趣旨等の説明板埋込：「近代医学のあけぼの 親蔵の記念に～（建立趣旨、建立期日、建立者名記載）」	76 × 137 × 31	B5 日本医師会、日本医学史学会、日本解剖学会、京都府医師会	1976 年 昭和 51 年 03 月 07 日	A	A	山脇東洋（尚徳 1705～62）が日本で最初の解剖を行った「六角半獄」跡を示す。日本近代医学のあけぼの「親蔵」を記念する碑。東洋は、山脇玄修（1654～1727）に医学を学び、六角半獄で、1754 年閏 2 月 7 日、所司代の官許をえて、日本最初の人体解剖親蔵を実施。	中、六角通神泉苑西入南側（更生保護施設「盟親」敷地内）	2017/08/03
B-1-06	○	03 中京	3 江戸 1754-	2 業績発祥・団体 1 教育・文化 06	『日本近代医学発祥之地』碑	B503 北面：「日本近代医学発祥之地」／東面：山脇東洋顕彰／昭和五十一年三月	★ 124 × 19 × 19	B4（山脇東洋顕彰会）	1976 年 昭和 51 年 03 月	A	A	山脇東洋が日本で最初の解剖を行った「六角半獄」跡を示す碑。建碑は「山脇東洋親蔵之地碑」（B-1-05）と同時期であり、中、六角通神泉苑同碑の所在地を示すための石標として建碑されたと思われる。	中、六角通神泉苑西入南側	2017/08/03

B-1-07	03 中京	4 明治 1870-	2 業績 発祥・団体 1 教育・ 文化 07	〔京都〕 舎密局跡（駒 札）	C 南面：「舎密局跡」説明 板	—	A3 京都市	記載 なし	A	A	京都舎密局跡を示す駒札。「舎密」はオランダ語「セミア」の誤記で化学を意味する。京都舎密局は東京築地により沈滞した京都の産業振興のため、明治3年明石博高の建議により府知事・横村正直が仮設立。同6年に完成。博高が所長となり烏津製作所創業者・烏津源蔵ら多くの人材を育て、京都の近代産業の発達に大きな役割を果たす。	中、夷川通河原町東入る（銅駝美工前）	2017/ 07/07
B-1-08	○ 03 中京	4 明治 1875-	2 業績 発祥・団体 1 教育・ 文化 08	烏津製作所 「創業之地」 碑	B 504 東面：「烏津製作所創業之地」／横に治事を記した駒札あり：「烏津製作所創業之地」（治事記載）～京都市	★ 106 × 18 × 18	C 烏津製作所従業員	1938 年 昭和 13 年 05 月 15 日	A	A	烏津製作所の創業地を示す碑。烏津源蔵（1839～1894）の生誕百年にその創業地を示すために、烏津製作所創業記念碑と同時に従業員により建立された。仏具の鋳物業を営んでいた源蔵は、ワグネル博士の薫陶を受け明治8年に教育用理化学器械を扱う烏津製作所を創業。初代、二代目源蔵が開発した教育用理化学器械の一部は、京都市学校歴史博物館が所蔵・展示。	中、木屋町通二条下る西側（烏津製作所創業記念資料館 支店）	2017/ 07/07
B-1-09	○ 03 中京	4 明治 1875-	2 業績 発祥・団体 1 教育・ 文化 09	烏津製作所 「創業記念 碑」	B505 東面：「源遠流長」（九鬼隆一男爵の揮毫になる4文字を拡大して刻んだもの）／西面：「（烏津製作所治事）碑文 石田凌風書／碑の前に金属製説明板	148 × 188 × 60	C 烏津製作所従業員	1938 年 昭和 13 年 05 月 15 日	A	A	烏津製作所の創業を記念する碑。烏津源蔵の生誕百年を記念して従業員により建立された。	中、木屋町通二条下る西側（烏津製作所創業記念資料館）	2017/ 07/07
B-1-10	07 左京	5 大正 1915-	2 業績 発祥・団体 1 教育・ 文化 10	「ボーイス カウト発祥 の地」碑	B506 南面：「そなえよ つねに 日本ボーイスカウト連盟先達 八木清」 北面：「（建立趣旨）～平成7年（1995年）11月1日 日本ボーイスカウト京都連盟」	127 × 136 × 50 自然石	B5 日本ボーイスカウト京都連盟	1995 年 平成 07 年 11 月 01 日	C／彫り浅く塗色薄れ表面読み取り困難	A	京都でのボースカウトの発祥を記念する碑。大正4年11月1日 大正天皇即位大礼の記念事業として、少年に対する社会教育事業創設の議が有志者の間に起こり、その一環として「京都少年義勇軍」の結成式が岡崎・平安神宮で挙行政され、京都連盟の起点となった。	左、岡崎最勝寺町（岡崎公園内）	2017/ 07/06
B-1-11	04 下京	5 大正 1920-	2 業績 発祥・団体 1 教育・ 文化 11	元崇仁小学 校「同和教 育の源流」 碑	B 507 東面：「同和教育の源流～（建立趣旨記載）～」／西面：「平成三年十月吉日 建之 崇仁学区民有志 發起人奥田勝彦 崇仁自治連合会長 崇仁小学校 碑文 阪根道夫 書 和田文夫」	95 × 193 × 25 自然石	C 学区民有志	1991 年 平成 03 年 10 月 03 日	C／統合閉鎖校の中庭に所在	A	人間の尊厳と自由平等を原点とする元崇仁小学校の教育を記念する碑。「明治4年学区民に学校創設以来幾星霜 本校は常に学区民と共に歩んできた 伊藤茂光校長と後に続く先人たちの不撓不屈 心血を注いだ教育熱と実践が厳しく今に伝えられ、崇仁教育の源流をなしている（略）」と碑文に刻まれている。	下、下京区川端町16	2017/ 06/20
B-1-12	08 右京	5 大正 1922-	2 業績 発祥・団体 1 教育・ 文化 12	「奨学碑」	B 509 南面：「（題字）奨学碑（建立趣旨等記載）」／北面：基金拠出者名と拠出金額を列挙／前に北桑田ライオンズクラブが平成27年7月に設置した、碑の由来を記した金属製説明板あり	233 × 95 × 13 自然石	A6 京都府北桑田郡	1922 年 大正 11 年 4 月 2 日（「北桑田郡誌」（17）による）	A	B／北桑田ライオンズクラブ	旧北桑田郡における奨学金制度の発足を記念する碑。明治5年学制発布当時から交通不便の北桑田では上級学校への進学が限られていた中、5代郡長西原光太郎の献身的努力により郡内外の158名から5万1千円（今日の1億7千万円）が集まり大正7年奨学金制度発足。	右、京北周山町上代2-1（北桑田ライオンズクラブ事務所敷地）	2017/ 08/10
B-1-13	○ 07 左京	5 大正 1922-	2 業績 発祥・団体 1 教育・ 文化 13	「全国水平 社創立の地」 碑	B508 南面：「全国水平社創立の地」／西面：「（建立の辞）～昭和五十七年三月三日 京都市」	206 × 79 厚さ約18cmの石板が並立	A3 京都市	1982 年 昭和 57 年 03 月 03 日	A	A	全国水平社の創立大会が「開かれた岡崎公会堂跡」を示す碑。大正11年3月3日、岡崎公会堂に全国の被差別部落から約3千人が集まり、全国水平社の創立大会が開かれた。水平社創立六十周年を記念し建立。「水平社はかくして生まれた。人の世に熟あれ、人間に光あれ。」と結ばれた創立宣言は、日本で最初の人間宣言と言われる。	左、岡崎最勝寺町（ローマシアター京都市内）	2017/ 07/02
B-1-14	04 下京	6 昭和 1936-	2 業績 発祥・団体 1 教育・ 文化 14	「栄養給食 の先駆けの地」 碑	A504 北面：「栄養給食の先駆けの地」	A 110 × 15 × 15	A1 京都市教育委員会	記載 なし	B	A	昭和11年全国に先駆けて「栄養給食」と名づけられた給食が開始されたことを示す碑。同年1月15日から京都市内の成徳尋常小学校等で虚弱・偏食児童の希望者に対して栄養改善のための「栄養給食」が実施された。それまで貧困児童・家庭対策として実施されていた給食とは異なり画期的であった。	下、繁昌町（元成徳中学校／玄閣脇）	2017/ 06/18
B-1-15	○ 06 東山	6 昭和 1947-	2 業績 発祥・団体 1 教育・ 文化 15	「BBS運 動発祥の地」 碑	B510 南面：「BBS運動発祥の地 古川健次郎 書」／碑の上面に金属製説明板を埋込：「日本のBBS運動発祥の地～（経緯記載）～平成9年2月22日 日本BBS連盟会長 古川健次郎」	96 × 70 × 60	B5 日本BBS連盟	1997 年 平成 09 年 02 月 22 日	A	A	BBS運動発祥の地を示す碑。兄弟のような立場から非行少年にかわり、その立ち直りを支援する青年のボランティア運動。Big Brothers and Sisters Movementの略。昭和22年2月22日、京都女子専門門学校（現京都女子学園）講堂で「京都少年保護学生連盟」の発会式であり、運動が全国に広がった。運動発足50周年記念で建立。	東、妙法院前側（京都女子高校前）	2017/ 08/04
B-1-16	11 伏見	6 昭和 1969-	2 業績 発祥・団体 1 教育・ 文化 16	「科学者精 神」碑（青 少年科学セ ンター内）	A505 正面：「科学者精神」／裏面：「昭和58年11月建立 京都大学名誉教授 佐々木中二筆」	145 × 65 × 30	A1 京都市教育委員会	1969 年 昭和 44 年	A	A	京都市青少年科学センターの基本理念である「科学者精神」を示す碑。昭和44年全市の小中学生が必ず参加するセンター学習、教員研修、市民対象の展示施設を備えた全国初の施設「京都市青少年科学センター」開所。「科学者精神」はその根本理念。	伏、深草池ノ内町（青少年科学センター内）	2017/ 08/06
B-1-17	04 下京	7 平成 1998-	2 業績 発祥・団体 1 教育・ 文化 17	「京都こど も市会宣 言」碑	B511 西面：京都市自治百周年記念～金属製説明板埋込：「京都こども市会宣言～（宣言文）抜粋～平成十年八月二十六日 京都こども市会 題字 京都市長 梶本頼兼筆」～京都市教育委員会／右横に宣言文の全文を記した副碑あり	90 × 150 × 100 自然石	A3 京都市	1999 年 平成 11 年 2 月 28 日	A	A	平成10年の京都市自治百周年を記念して開催された「京都こども市会」を記念する碑。京都こども市会は自治百周年事業として当時25年ぶりに開催、市内の小中学生72人が京都市の未来像について討論、8月26日に本会議を開催。「京都こども市会宣言」が発せられた。碑の所在地にはタイムカプセルが埋納され25年後の2023年に開封。	下、麩屋町通仏光寺下る鍋屋町248-2（京都市学校歴史博物館内）	2017/ 07/07

京都市域に所在する『教育碑』についての総合的考察（一） —教育碑に関する実地調査結果とその分析—

B-1-18	○	07 左京	4 明治 1910-	2 業績発祥・団体 1 スポーツ	【第一蔵の地】碑	B512 東面：「第一蔵の地 篤太郎書」／西面：「明治 43 年 9 月 第三高等学校生徒 堀江卯吉 中村愛助 相馬竜雄 玉置除幸 は慶応義塾生 真島地の指導によりこの地ではじめてラグビー球を蹴る こうして三高蹴球部が生まれ こゝに日本ラグビー界の輝かしい歴史が始った 昭和 44 年 10 月 5 日 第三高等学校蹴球部」	100 × 234 × 50 自然石	B1 第三高等学校蹴球部	1969 年 昭和 44 年 10 月 05 日	A	B／下鴨人神社	第三高等学校蹴球（ラグビー）部のはじまりを記念する碑。明治 43 年、旧制第三高等学校に関西で最初（国内 2 番目）のラグビートームが創設された。当時国内唯一のラグビー部を持つ慶応義塾と三高の学生が札の森の馬場で一緒に練習、これがきっかけとなって三高蹴球部が発足。翌年 4 月 8 日には 慶応と三高が対戦し、日本人同士の最初のラグビー試合となった。	左. 下鴨 泉川町 市武道セ 社内)	2017/ 06/11
B-1-19		07 左京	5 大正 1914-	2 業績発祥・団体 1 スポーツ	【高専柔道之碑】	B513 南面：「高専柔道之碑」／北面：「高専柔道之碑」(建立地旨、建立期日、建立者記載) 書 古川壽一 製作 和泉正敏	287 × 176 × 105 自然石	B1 京都大学 柔道部、長谷川繁夫記念夜技振興会	2009 年 平成 21 年 03 月 15 日	A	A	「高専柔道」の開催を記念する碑。故長谷川繁夫氏の遺志により、遺族から京都大学柔道部に寄付された。左側には立技を表す心石、右には寝技を表す石が配されている。高専柔道は、大正 3 年に始まり、27 年間にわたって開催され、戦時体制移行に伴い中断された。	左. 聖護 院門頼美 町(京都 市武道セ ンター 内)	2017/ 07/06
B-1-20		03 中京	5 大正 1915-	2 業績発祥・団体 1 スポーツ	【バスケットボール発祥の地】碑	B514 台座部分北面に金属板を埋込：「1915 年 京都 YMCA 佐藤金一氏と F.H. ブラウン氏によってバスケットボールの歴史がこの地で始まる」／台座の上にアルミ鋳物製のバスケットボールのミニチュメント。	150 × 35 × 70	B5 京都 YMCA	2014 年 平成 26 年 07 月 19 日	A	A	バスケットボール発祥の地を示す碑。日本にバスケットボールが伝わったのは、明治 41 年、大正 4 年には旧制京都一中教諭の佐藤金一氏が京都 YMCA で日本初のチームを作った。同 14 年には京都籃球協会(京都バスケットボール協会の前身)が発足。日本初のバスケットチーム発足から 100 年目に当たる 平成 26 年、京都 YMCA 敷地に建立。	中. 中之 町(京都 YMCA 前)	2017/ 07/21
B-1-21		04 下京	5 大正 1919-	2 業績発祥・団体 1 スポーツ	【軟式野球発祥の地】記念像・碑／松ヶ崎・宝ヶ池公園広場に同じ記念像設置	B515 北面：「軟式野球発祥の地」／「夢見る季節」京都市長 梶本頼兼書 他／制作 竹内晋平	125 × 77 × 38 / 台座の上に記念像設置	B5 京都市スポーツ少年団野球連盟	2003 年 平成 15 年 10 月 19 日	B(元成徳中設置分)	A	元成徳中学校が軟式野球発祥の地であることを示す記念像・碑。京都市の小学校教員を中心に京都少年野球研究会が結成され、京都文具商業組合の組合長であった鈴鹿栄氏を中心に軟式ボールの試作品を開発し、大正 8 年 7 月に京都市第二高等小学校(元成徳中)校庭で最初の軟式野球大会開催。	下. 繁昌 町(元成 徳中学校 玄 関 脇 左. 宝ヶ 池公園ス ポーツ広 場)	2017/ 06/18
B-1-22		08 右京	7 平成 1974-	2 業績発祥・団体 1 スポーツ	【卓球バレー競技発展の地】碑	B516 南面：「～京都における卓球バレー競技発展の地」／背後の構壁に金属製説明板を貼付：「(建立趣旨記載) ～平成 23 年 6 月 10 日 卓球バレー競技記念碑設置実行委員会」	53 × 100 × 70 自然石	B3 記念碑設置実行委員会	2011 年 平成 23 年 06 月 10 日	A	A	京都市立鳴滝総合支援学校が卓球バレー発展の地であることを示す碑。卓球バレーは、大阪府の筋ジストロフィー症児のための養護学校で始められた競技で、昭和 49 年 6 月 7 日に「第 5 回近畿筋ジストロフィー症児交歓会スポーツ交流会」において実施され、その後、京都市立鳴滝養護学校(現鳴滝総合支援学校)を中心に	右. 音戸 山山ノ茶 屋町(鳴 滝総合支 援学 校 内)	2017/ 07/18
B-1-23		01 北	7 平成 1987-	2 業績発祥・団体 1 スポーツ	【大文字駅伝】記念像・碑	B517 台座西面上部：「都大路の風になれ」／台座西面下部に説明板貼付：「大文字駅伝記念像～(設置趣旨、建立期日、建立者記載) 協賛 京都市青少年スポーツ財団 制作 竹内晋平」	60 × 195 × 66 の台座の上にタ記念像設置	A1 京都市教育委員会／協賛：京都市青少年育成スポーツ財団	2006 年 平成 18 年 01 月 29 日	A	A	京都市小学校大文字駅伝大会の創始を記念する碑。京都市小学校大文字駅伝大会は、小学生が公道を走る全国初の駅伝大会として市立学校関係者等の発案、協力により、昭和 62 年 2 月 15 日に第 1 回大会を開催。20 回大会を記念して 6 回大会からのスタート地点の衣笠小学校に記念像・碑が設置された。	北. 平野 宮本町(衣 笠小 学校前)	2017/ 07/16
B-2-01		11 伏見	0 奈良 676-735	3 人物・業績	【学藝の祖 舎人親王崇敬碑】	B601 南面：中央に「学藝の祖 舎人親王崇敬碑 柏樹杭迫晴司謹書」と縦書き。左右に金属製説明板を貼付。(右側に舎人親王の経歴、左側に舎人親王の功績記載)／北面(建立期日、建立者等記載)	180 × 150 × 2 段の台座の上に設置	B4 藤森神社司 藤森信正ほか 19 名／協賛 12 名・社	2011 年 平成 23 年 11 月 14 日	A	A	養老 4 (720) 年に日本書紀編纂を完成し、日本最古の学者と伝えられる舎人親王(676～735)を顕彰する碑。平成 17 年に行われた藤森神社鎮座 1800 年祭並びに式年遷宮 50 年祭を記念して建立された。揮毫は氏子であり日本を代表する書家・杭迫柏樹氏。	伏. 深草 島居崎町 609 (藤 森 神 社 内)	2017/ 06/09
B-2-02	○	07 左京	3 江戸 1583-1657	3 人物・業績	【奉先堂】(林羅山)碑	B602 東面：「奉先堂碑」【篆額】～(由来記載) ～宝暦八年戊寅仲秋中浣 国子監監酒朝散大夫林信謙并書	145 × 104 × 25	記載なし／林 鳳岡?	1758 年 宝暦 08 年	C／熊除け? ネットあり	B／地域?	儒学者林羅山(1583～1657)の家廟「奉先堂」の跡を示す碑。奉先堂は鞍馬二ノ瀬村を領した林家の家廟。(1674 年、羅山孫の鳳岡が庄屋今江八兵衛清長に命じて堂を建て、羅山の遺品や遺像を納めて「奉先堂」と名付けた。明治維新以後は荒廃し、現在は 1758 年建立の本碑のみが残る。	左. 鞍馬 二ノ瀬町 二ノ瀬駅近 くの 大日 大聖不動 尊への参 道右側	2017/ 07/09
B-2-03		08 右京	3 江戸 1598-1672	3 人物・業績	【吉田光由】記念碑	B603 東面：「和算の創始者『塵劫記』著者 吉田光由記念碑」／西面：「小倉山二尊院 羽生田寂裕 嵐山大悲閣千光寺 大林道忠他全 27 名連記」／北面：「贈 京都 吉田光由悠久会 IKI」／南面：建立期日／碑前に駒札	★ 120 × 30 × 30 御影石	B4 京都吉田光由悠久会	2015 年 平成 27 年 11 月 19 日	A	A	和算の創始者・吉田光由(1598-1672)を顕彰する碑。京都の「京都吉田光由悠久会」が、ゆかりの二尊院の境内に建立。光由は嵯峨に生まれ、1627 年日本初の本格的な数学教科書『塵劫記』を刊行し当時のベストセラーとなった。	右. 嵯峨 二尊院門 前長 神(二尊 院境内)	2017/ 06/24
B-2-04		08 右京	3 江戸 1598-1672	3 人物・業績	【塵劫記】記念碑	B604 南面：「塵劫記」／前に副碑あり：(南面)「(光由の功績、建立期日記載)」。(北面)「建立者記載／揮毫 常寂光寺四十四世 日清／施工 株式会社 澤吉」	155 × 180 × 45 自然石 2 段の台座の上に設置	B5 日本数学会 史学会、全国珠算教育連盟、日本珠算連盟	1977 年 昭和 52 年 10 月 10 日	A	A	塵劫記刊行 350 年を記念して建立された吉田光由を顕彰する碑。光由は、京都嵯峨の角倉家の一員。詳略数種の塵劫記を刊行し草創期のわが国算学発展に貢献した。以後の珠算書及び算学書はほとんどこれになった。塵劫記刊行 350 年を記念し角倉家ゆかりの常寂光寺境内に顕彰碑建立。	右. 嵯峨 小倉山(常 寂光 寺境内)	2017/ 06/24
B-2-05	○	03 中京	3 江戸 1618-1682	3 人物・業績	【山崎闇斎】(祠堂碑)	B605 南面：「山崎闇斎先生祠堂碑」【篆額】 賞勲局總裁従二位勲三等伯爵正親町正家額～(建立趣旨、建立期日記載) 後学従六位内田周平謹撰 内大臣秘書官正六位勲五等日高秩父書」／北面：(発金者、協賛者記載)／西面：「晩山貞昌撰」	168 × 75 × 15	C 出雲路信直の八世の子孫敬通他有志	1909 年 明治 42 年 08 月	C／横に工用簡易トイレ	A	儒者山崎闇斎と闇斎を祀る垂加社(下御霊神社末社)を顕彰する碑。闇斎(1618～82)は、1642 年に随、京都に招き携え、のち垂加神道を説き崎門派を開く。門弟は浅見綱斎など 6000 人を輩出。明治 40 年、闇斎が正四位追贈されたことを記念し建立。	中. 寺町 通九太町 下(東側 下御霊 神社内)	2017/ 07/07

B-2-06	○	04 下京	3江戸 1614 ～853	3人物・ 業績	八橋檢校 「道場跡」 碑	B606 東面：「このあたり 八橋檢校 道場の跡」／西 面：「井筒ハツ橋本舗 平成 二十年六月建之 ウライ株式 会社」／御影石製／後に説 明の駒札あり	★103× 17×17 御影石	B9 井筒ハツ 橋本舗・ ウライ株 式会社	2008年 平成20 年06月	A	A	近代箏曲の祖と言われる箏曲家「八橋檢 校（1614～85）」の旧宅・道場址を示す碑。 八橋檢校は、八橋流（後の生田流・山田流） の創始者で「六段」を作曲。1663年に京 都に移り、この地に居をかまへ箏曲を教 授し数多くの門人を養成。	下、室町 通綾小路 上る西側	2017/ 06/18
B-2-07	○	09 西京	3江戸 1724- 1779	3人物・ 業績	「善行碑」 （孝子儀兵 衛）	B607 西北面：「善行碑（墓 額）～まことある人のこのろ のしら玉の ひかりそ御代の ひかりなるらむ～ 平田男爵 墓額 邦三書 印 京都芳村 茂承刻」／東南面：建立期日。 建立者記載	162×65 ×15	C 中村半四 郎	1909年 明治42 年01月 24日	A	B／ 川岡小	川岡村の篤志者中村半四郎が、孝子儀兵 衛や村内の日露戦争戦没者の善行を顕彰 するために建立した碑。儀兵衛（1724～ 79）は、江戸時代中期の人。その行状は 布施松翁「西岡孝子儀兵衛行状聞書」で 広められ、大正12年小学修身教科書（第 十課・孝行）に記載。	西、川島 清 樋町 （川岡小 学校内）	2017/ 08/02
B-2-08	○	09 西京	3江戸 1724- 1779	3人物・ 業績	「孝子儀兵 衛」碑	B608 南面：忠誠貫於金石 孝弟通於神明／伯爵東郷平 八郎書 花押／北面：「京都 芳村茂衛門刻～（建立趣旨記 載）～大正十二年十月五日 勲八等鈴木岩人謹撰 近藤節 重謹書 孝子表徳会建之」	240× 120×20	B4 孝子表徳 会	1924年 大正13 年10月 05日	A	B／ 冷聲院	孝子儀兵衛の孝行を顕彰する碑。碑文撰 者鈴木岩人は元川岡尋常高等小学校長で 孝子儀兵衛顕彰に尽力した。冷聲院内に 墓所があり、毎年命日（10月5日）に孝 子祭が営まれる。川岡小学校蔵「校史（其 二）」に「善行碑建設縁起」所収。	西、川島 玉 樋町 （冷聲院 内）	2017/ 08/02
B-2-09	○	09 西京	3江戸 1724- 1779	3人物・ 業績	「孝子儀兵 衛翁旧址」 碑	A601 北面：「孝子儀兵衛翁 旧址」	★102× 17×12	記載なし	記載なし	C／左 側壁近 接。祝 認園 藝。興 壊恐れ	C／ 民地	儀兵衛の旧住居跡を示す碑。	西、川島 栗田町	2017/ 08/02
B-2-10	○	07 左京	3江戸 1810	3人物・ 業績	「小野蘭山 顕頌碑」	B609 南面：（上部）「小野 蘭山顕頌碑」（題額）を刻む （下部）陶板埋込：「（蘭山 肖像・キブネギク図）～（経 歴・顕彰内容建立期日、建立 者記載）／北面陶板埋込：「小 野蘭山顕彰碑の各種典拠につ いて記載（題字／肖像／キ ブネギク図 花象）」	160× 170×39	B3 小野蘭山 没後二百 年記念事 業会	2010年 平成22 年11月	A	A	本草学者「小野蘭山（1729-1810）」の功 績を顕彰する碑。蘭山は京出身の本草学 者。京都で私塾「衆芳軒」等を開き本草学 ・博物学を教えた。京都での教育研究は46 年間に及び、日本の自然誌研究の創始者 と言われる。ドイツの医師・植物学者シー ボルトから「日本（東洋）のリンネ」とも 称えられた。	左、下鴨 半 木町 （京都府 立植物園 内）	2017/ 08/05
B-2-11	○	07 左京	3江戸 1830- 59	3人物・ 業績	「吉田松陰 揮関詩碑」 詩碑の所在 を示す角 柱石標（高 155×幅 18×奥行 18）あり	B610 北面：（松陰自作自筆 の詩を刻す）／南面：「～（建 立趣旨、建立期日記載）～從 二位勲一等子爵野村 靖撰 正三位勲一等男爵野村素介 書 芳村茂承鐫／石標北面： 「山河 吉田松陰先生 詩碑 標帝」	350× 190×19	A5 京都府教 育会	1908年 明治41 年10月	C／碑 文読み 取り困 難	B／ 府立図 書館	吉田松陰（1830～59）の勤王思想を表わ す自作自筆の詩を刻した碑。松陰の五十 四忌にあたる明治41年に京都府教育会が 建立。石標は、昭和12年「尊攘堂」創 立五十周年を記念して、尊攘堂委員によっ て建立された。尊攘堂の所蔵品は、品川 の没後、明治34年に京都帝國大学に寄贈 され、36年には構内に二代目尊攘堂が建 てられた。	左、岡崎 成勝寺町 （京都府 立図書館 内）	2017/ 07/17
B-2-12	○	04 下京	4明治 1814- 1895	3人物・ 業績	「幸野梅嶺 生誕地」碑	A 602 東面：「幸野梅嶺生 誕地」／西面「昭和四十五 年十月建立 豊」	★90× 15×14	C （幸野？） 豊	1970年 昭和45 年10月	A	C／ 民地	画家・幸野梅嶺（1844～95）の生誕地を 示す碑。梅嶺は明治11年画学校をつくる よう意見を出し、同13年田能村直入らと 京都府画学校を設立。教育者として名高 く、西谷洪水らとともに幕末、小学校建 設の建白書に名を連ねる。	下、新町 通四条下 る西側	2017/ 06/18
B-2-13	○	06 東山	4明治 1819- 86	3人物・ 業績	「石崎先生 堂射碑」	B 611 東面：「石崎先生堂 射之碑」【題額】～（石崎長久 の功績を記述）～明治二十八 年一月」	260× 120×15 ×自然石 台上	C 門人等	1895年 明治28 年01月	A	A	弓の名手石崎長久（1819～86）を顕彰 する碑。長久は、天保13年に進華学院 三十三間堂で通し矢を試み、総計6100矢 を射て、その9割近くを通した。京都所 司代与力の職をつとめ、維新後は京都府 に出仕し弓道教授に専念。	東、三十三 間堂通り （三十三間 堂内）	2017/ 07/29
B-2-14	○	07 左京	4明治 1872- 2002	3人物・ 業績	「レオン・ ジュリー遺 愛碑」	B613 北 面：「A LA MEMOIRE DE Mr LEON DURY」【題額】 仏人列翁統 理氏遺愛碑～（建立趣旨記載） ～明治三十年十月 正四位勲 四等文学博士重野安綱 梨本 宮家令従六位勲五等西尾為忠 書」	350× 140×45 自然石	C 有志	1899年 明治32 年10月 （高梨光 司「稲畑 勝太郎 君」に依 る）	A	B／ アン フス・テ ィ・フ ラン・セ 関西	フランス人医師レオン・ジュリーの日本 での功績を顕彰する碑。レオン・ジュリー （1822-91）はフランスの医師で、幕末に 来日し、長崎で語学教師をつとめた。明 治4年、京都府は仏学校を設置しジュリー を招聘。同8年まで仏語教師をつとめ、 その間西陣物産会社職工のフランス派遣 に尽力した。	左、田 泉 殿町（アン ス・ティ・フ ラン・セ関 西内）	2017/ 07/29
B-2-15	○	07 左京	4明治 1878-	3人物・ 業績	「ワグネル 顕彰碑」	B618 北面：上部にワグネル 肖像。下部に著名板「Dr.G Wagener」を配し、その下に ワグネルの功績等を記した銅 鑄板を埋込。詩文は京都市長 従三位勲二等 馬淵太郎／南 面：請負人 石工 吉村小右衛 門 京都千九角	390× 880× 125 銅鑄板縦 50×横 360	A3 京都市	1924年 大正13 年	A	A	ドイツの化学者ワグネル（1831～92）の 日本での功績を顕彰する碑。大正13年3 月20日から同5月20日まで岡崎公園で 開催された東宮殿下御成婚奉祝万国博覧 会参加50年記念博覧会に際し建立。ワグ ネルはドイツの化学者で、明治元年に来 日し大学南校で教授、明治11年京都府に 招かれ舎館局に著任し、同局に新設され た化学校で教授。	左、岡崎 成勝寺町 （府立図 書館横）	2017/ 07/02
B-2-16	○	09 西京	4明治 1872-	3人物・ 業績	「中路亨表 彰碑」	B 616 西面：「表彰碑【篆額】 ～表彰内容記載～ 京都府知 事四位勲二等馬淵鋭太郎 京 都府立京都第三中学校長従六位 中野省吾撰 京都誠斎石川 辰一郎書」／東面：「【建立期 日、建立者】記載、下桂 石辰」	160×70 ×15 自然石	C 門人有志	1919年 大正08 年04月	B	C／ 橘町	洛西・乙訓地域で活躍した教育家、中路 亨（1832～90）を顕彰する碑。中路は 1857年に葛野郡上桂村に私財を投じて私 塾を開き教育活動を始め、明治5年、 村人の懇請を受けて川岡尋常小学校の校 長に就任。同10年物集女校に招聘され、 5年間勤務し職を辞した。以来家に居な がらも教育について努力を惜しまず地域 で敬慕された。	西、桂御 園（桂大 橋西詰北 側）／橘 町に石欄 で囲まれ た区画 の中に所 在。	2017/ 08/02
B-2-17	○	04 下京	4明治 1889-	3人物・ 業績	「桜田儀兵 衛氏石標・ 顕彰碑」	B620 石標南西面：桜田儀 兵衛氏之碑／南東面：従三位 公爵近衛篤麻呂書／北西面： 建立期日記載／碑前に胸札。 顕彰碑あり／顕彰碑南面： 「（功績内容記載）～明治28 年3月京都府紀伊郡長正七位 荒井公本撰并書」	379×61 ×60	記載なし	1895年 明治28 年03月	A	A	桜田儀兵衛（1832～93）の功績を顕彰す る碑。桜田儀兵衛は紀伊郡柳原町の名望 家。明治6年柳原庄の戸長となり、地域 の改善・向上に尽力した。土地や資金を 寄付し同9年に柳原小学校（元崇仁小学 校）の校舎を新築。同22年に柳原町町長 に選出。	下、下之 町（元崇 仁コミュニ ティーセ ンター前 ）	2017/ 06/20

京都市域に所在する『教育碑』についての総合的考察（一） —教育碑に関する実地調査結果とその分析—

B-2-18	10 山科	4 明治 1872-	3 人物・業績	「矢部文蔵 紀思碑」	B 614 西面:「矢部先生紀 思碑」／東面:建立趣旨記載	270 × 103 × 23 自然石 台座の上 に設置	B2 山階同 意会	1924 年 大正 13 年 10 月 01 日	C／東 面読み 取り困 難	A	山階小学校の初代校長（心得）を務め、 山科の教育の父と呼ばれた矢部文蔵(1845 ～ 1922)を顕彰する碑。文蔵は明治 3 年 東野校の創立準備の時から、一時期を除 いて、明治 43 年までの間、東野校・山階 校に勤務。明治 5 年からは東野校の初代 校長（心得）をつとめた。また、同 36 年 3 月には、山科の名所・旧跡等を「郷土唱歌」 にまとめ、子どもたちに郷土愛を育てよ うと努めた。	山、西野 大手先町 (山階小 学校内)	2017/ 07/27
B-2-19	01 北区	4 明治 1873-	3 人物・業績	「益井茂平 翁顕彰碑」	B 617 西面:「益井茂平翁 顕彰碑」／下部に説明板埋込	287 × 130 × 40 自然石	B 3 創 立 80 周年記念 事業委員 会	1953 年 昭和 28 年 10 月 15 日	C／東 面視認 困難	A	眼科医で郡中第 4 小学校連台野校（現楽 只小）初代校長を務めた益井茂平（1833 ～ 1903）を顕彰する碑。楽只小学校創立 80 周年を記念し建立。茂平は、楽只小 学校の前身となる寺子屋を私財を投じて建 設するとともに眼病院の開設など、住民 の生活向上に尽力。明治 6 年 4 月 20 日開 校した連台野校の初代校長となる。同 18 年楽只校と改称。	北、紫野 西舟岡町 (楽只小 学校内)	2017/ 07/25
B-2-20	○ 02 上京	4 明治 1860- 1923	3 人物・業績	嶋村俊一 「邸址」碑	B615 東面:「嶋村俊一邸址」 ／南面:「依夫人 嶋村こう道 志 ～(建立期日・建立者記載) ～」／北面:「京都府立医学 校第五代校長 京都府立医学 専門学校初代校長」	★ 131 × 18 × 18	C 京都府立 医科大学 名誉教授 久保豆 二郎	1985 年 昭和 60 年	A	A	京都府立医学専門学校（現京都府立医大） の初代校長であった嶋村俊一（1860～ 1923）の邸宅跡を示す碑。嶋村はドイツ 留学の後、特に、神経精神科教育と治療 に貢献。旧邸は未亡人こう道の遺言により 売却、財団法人京都府医学振興会嶋村基 金設立。	上、新島 丸通切通 し上ル西 側	2017/ 07/23
B-2-21	○ 07 左京	4 明治 1899- 1933	3 人物・業績	「剣聖内藤 高治先生顕 彰碑」	B612 東面:「剣聖 内藤高 治先生顕彰碑」／西面:(功績、 建立期日, 建立者記載)	214 × 85 × 18 自然 石台座の 上に設置	B5 京都府 剣道連盟、 武蔵同窓 会、武専 同 意 会、 碧水会	1965 年 昭和 40 年 05 月 05 日	A	A	武徳会剣道師範を約 40 年間つとめた内藤 高治（1862 ～ 1929）の功績を顕彰する碑。 旧武徳殿内に建立。高治は、北辰一刀流 の奥義を極め、警視庁剣術部教師を務め ていたが、明治 32 年、京都武徳会本部に 招聘され、大日本武徳会剣道師範となる。	左京区聖 護院円頓 美町（京 都市武道 センター 内）	2017/ 07/02
B-2-22	03 中京	4 明治 1900-	3 人物・業績	「中川小十 郎記念碑」	B621 北西面:「〔小十郎の 業績、建立期日記載〕～立命 館総長 末川博しるす～」	130 × 280 × 62 自然 石	B1 立命館大 学	1957 年 昭和 32 年 10 月 07 日	A	A	立命館学園の創立者中川小十郎の功績を 顕彰する碑。碑は、当初、衣笠キャンパ ス「中川会館」脇に建立されていたが、 平成 18 年、中川会館が朱雀キャンパスに 新設されたのを機に現在地に移設。碑に は末川博が中川小十郎の十三回忌（昭和 32 年 10 月 7 日）に記した顕彰文が刻ま れている。小十郎は、1900 年私財を投じ て立命館大学の前身京都法政学校を開校。	中、西ノ 京朱雀町 1（立命 館大学朱 雀キャン パス内）	2017/ 07/28
B-2-23	○ 07 左京	4 明治 1892-	3 人物・業績	「廣池千九 郎先生仮寓 址」碑	A 604 東面:「廣池千九郎 先生仮寓之址」／北面:「昭 和五十一年秋九月十二日 京 都モラロジー有志建之」	★ 105 × 20 × 15	C 京都モラ ロジー有 志	1976 年 昭和 51 年 09 月 12 日	A	A	教育者廣池千九郎（1866 ～ 1938）の京都 での住居跡を示す碑。千九郎は地元大分 県で教職に携わっていたが、明治 25 年京 都に移住し、「史学雑誌」を創刊する など歴史研究を行う。同 28 年東京に移つ た後モラロジー（道徳科学）の研究を行い、 昭和 10 年「道徳科学専攻塾」（麗澤大学 の前身）を創立。	左、仁王 門通川端 東入（頂 妙寺内妙 雲院前）	2017/ 07/07
B-2-24	○ 01 北	4 明治 1876- 1967	3 人物・業績	「新村出博 士「旧宅」碑	A 603 南面:「新村出博 士旧宅」／東面:「木戸孝充公 邸 遺構」／西面:「一九八八 年九月建之」	★ 89 × 12 × 12	記載なし	1988 年 昭和 63 年 09 月	B	C／民 地	言語学者・新村出博士の旧邸を示す碑。 新村出（1876 ～ 1967）は、明治 42 年 から昭和 11 年まで京都帝国大学教授をつ とめた。戦後発刊された国語辞典「広辞苑」 の編纂・著者として知られる。大正 12 年、 この地に転移し昭和 42 年に死去するまで 暮らした。	北、小山 中溝町	2017/ 07/22
B-2-25	06 東山	4 明治 1876- 1926	3 人物・業績	「真下飛泉 先生「戦友」 歌碑」	B 619 南面:「ここはお 國を何百里 櫻井忠温」 ／北面:「戦友の歌を通して 真下飛泉氏を追慕する者 一千八百二十四名建之 昭和 二年十一月三日」／付近に金 属製説明板あり	180 × 90 × 30 自然 石約 90cm の台座上	C 教 え 人 1824 人	1927 年 昭和 02 年 11 月 3 日	A	B／良 正院	「戦友」の作者であり教育者真下飛泉 （1878-1926）を追慕する碑。飛泉は明治 の教育者・歌人。京都府尋常師範学校を 卒業後、有濟尋常小学校訓導、修道・尚 徳・成徳各尋常小の校長を務める。明星 派歌人として知られ明治 38 年「戦友」を 発表。飛泉を慕う教え子 18 24 人により、 飛泉が一時身を寄せ墓のある知恩院塔頭 良正院に建碑。	東、林 下町 402 (良正院 内)	2017/ 07/29
B-2-26	○ 01 北	5 大正 1924-	3 人物・業績	「本尊美君 碑」	B623 東面:「題 額 RICHARD ARTHUR BRABAZON PONSONBY FANE 1878-1937 本尊美 君碑」／西面:「(功績記載) ～昭和十三年十一月友人建 之」	120 × 28 × 85 自然 石	C 友 人	1938 年 昭和 13 年 11 月	A	B／西 方寺	イギリス人の日本研究家ボンソンビー博 士の功績を顕彰する碑。ボンソンビー （1878 ～ 1937）は、明治 11 年 1 月 8 日イ ギリス貴族の中でも名門の家に生まれ、 明治 37 年初来日し、大正 8 年から日本に 居住。同 13 年からは京都・上賀茂に居住。 昭和 12 年日本で亡くなった。京都では、 府立第一中学の英語教師の職につき、神 道・神社を研究した。	北、西賀 茂鎮守菟 町（西方 寺内）	2017/ 06/11
B-2-27	07 左京	4 明治 1906-	3 人物・業績	「上田静一 先生之碑」	B622 北面:「報恩記念 上 田静一先生之碑」／南面:「昭 和十二年五月田中親友夜学校 同窓会建之」／付近掲示板に 児童作成の説明文あり	210 × 85 × 17	B2 田中親友 夜学校同 窓会	1937 年 昭和 12 年	A	B／旧 養成 施設	田中尋常小学校（元養正小）で同和教育 実践に功績のあった上田静一（1884～ 1953）を顕彰する碑。静一は 23 歳で田中 尋常小学校に赴任。家のために昼間厳し い労働をせざるを得ない子どもたちのた めに自費で民家買い、地域の志願であつ た夜学校（市内最初）を開設。1 階を教室 にし 2 階を住まいとした。静一の遺徳 を偲び教え子らが建碑。	左、田中 玄 町 (旧養正 学習施設 前)	2017/ 06/11
B-2-28	07 左京	6 昭和 1981-	3 人物・業績	「福井謙一 ノーベル化 学賞受賞記 念」碑	B624 東面:「福井謙一先生 ノーベル化学賞受賞記念 1981 年 12 月」	50 × 80 × 20 自然 石	A8b 京都大 学	1981 年 昭和 56 年	A	A	1981 年に京都大学工学部教授福井謙一が 我が国で初めてノーベル化学賞を受賞し たことを記念する碑。	左、吉田 本町（吉 田キャン パス）	2017/ 06/11
B-2-29	03 中京	7 平成 2010-	3 人物・業績	「米田貞一 郎先生の満 百一歳をお 祝いする」 碑	B 625 北面:「絆」／西面: 「米田貞一郎先生の満百一 歳をお祝いして」／東面: 「二〇一〇年一二月十一日 堀川倶楽部」	71 × 80 × 12	B 2 堀川倶 楽部	2010 年 平成 22 年 12 月 11 日	A	B／堀 川高 校	京都市立堀川高等学校長等を務めた米田 貞一郎（1909 ～ 2016）が満百一歳を迎 えたことを祝する碑。米田は昭和 9 年京都 帝国大学文学部卒業後、崇仁小学校代用 教員から訓導に採用され、旧制中学校教 諭を経て堀川高校校長を約 10 年間務め た。以後、京都市教育委員会の指導部長、 京都学園大学教授等を歴任。一貫して教 育に専念。	中、東堀 川通錦小 路上四 坊堀川町 622-2 (堀 川高 校 内)	2017/ 08/08

C-01	06 東山	6 昭和 1934-	4 慰霊 1 室戸台風	「師弟愛の 像・碑」	B701 南西面：「師弟愛の像 ～かく大い 愛のすがたをい まだ見ず～この画像に涙しな がる～」／右側に説明板あり	200 × 240 × 150 の台 座の上に 高さ 82 の像設置	CA 当初市民 有志が建 立、高山 義三市長 により再 建	1960 年 昭和 35 年 09 月 21 日再 建	A	A	昭和 9 年 9 月 21 日の室戸台風で犠牲と なった淳和（現西院）小学校の松浦寿恵 子先生と児童 32 名を慰霊する碑。右京区 の淳和小では、1 年生担任の松浦寿恵子 の調導が子どもたちをかばい殉職。その尊 い精神を讃え、知恩院三門横に市民有志 が記念像を建立。歌人吉井勇は「死線を 越えた師弟純愛」と形容、台座には吉井 の歌が刻まれた。	東 林下 町（知恩 院横）	2017/ 07/29
C-02	08 石京	6 昭和 1934-	4 慰霊 1 室戸台風	「風災記念 碑」（西院 小）	B702 北東面：「風災（横書） 記念碑 殉職調導松浦寿恵子 先生 殉難児童一学年三十二 名 西院校」／左側に由来を 記した胸札あり。	105 × 53 × 25 自然石	A8a 西院小学 校	記載な し（碑に 「西院小 校」とあり 昭和 22 年以降か）	A	A	室戸台風の殉難者を慰霊するため西院小 学校内に設けられた慰霊碑。淳和小（現 西院小）では、8 教室が倒壊。1 年 4 組の 児童約 180 名が一瞬にして下敷きとなり 教諭 1 名（松浦調導）・児童 32 名が犠牲 となった。西院小では昭和 52 年から 9 月 21 日を風災記念日と定めている。学校に は「初代師弟愛の像」のミニチュア像が 保管されている。	右 西院 春日町 （西院小 校内につ て左側）	2017/ 08/01
C-03	02 上京	6 昭和 1934-	4 慰霊 1 室戸台風	「風害記念 碑」（西陣 小）	A701 南面：「昭和九年九月 二十一日 記念碑」	73 × 145 × 60 3 段の台座 の上に設 置	A8a 元西陣小 学校	記載な し	C／統 合閉鎖校 の旧校舎 北側、外 部から視 認不可 能	A	室戸台風による犠牲者を慰霊するため元 西陣小学校内に設けられた慰霊碑。西陣 小学校では、改築中の旧校舎 10 教室が 倒壊。児童職員約 500 名が下敷きとなり 41 名の児童が死亡。現在も春と秋の年 2 回、学校の「風害記念碑」と妙蓮寺の「西 陣校罹災児童慰霊塔」で学校安全の誓い を新たにしている。	上 上立 通堀川 西入 幸 在町 689 （元西陣 小学校 内）	2017/ 08/01
C-04	11 伏見	6 昭和 1934-	4 慰霊 1 室戸台風	「風災殉難 碑」（下島 羽小）	B703 南面：「風災殉難碑 伯爵 清浦金吾書」／北面：「昭 和十年九月建之」／台座南面 に「風災殉難児童」20 名の 氏名を刻む石板を埋込／石碑 右側に副碑	136 × 80 × 35 3 段の台 座の上に 設置	A8a 下島羽小 学校	1935 年 昭和 10 年 09 月	A	A	室戸台風による犠牲者を慰霊するため下 島羽小学校内に設けられた慰霊碑。下島 羽小学校では校舎が倒壊。低学年児童が 下敷きとなり死者 20 名、重軽傷者 79 名（教 職員の重軽傷者 4 名）を出す大惨事となっ た。昭和 10 年 9 月近くに殉難碑が建てら れたが学校移転に伴い、昭和 51 年 11 月 1 日現碑地に移設。	伏 下島 羽町 田 羽小学校 内）	2017/ 08/02
C-05	11 伏見	6 昭和 1934-	4 慰霊 1 室戸台風	「風災記念 碑」（向島 小）	B704 西面：「風災記念」／ 東面「昭和 9 年 9 月 21 日関 西風水害殉職殉難者 倒壊 木造平屋建五教室 ～（殉難 児童 2 名・殉難者 14 名の氏 名列挙）～ 昭和 33 年 9 月 21 日再刻京都市立向島小学 校」台座下部「石工 谷義之 助」	76 × 150 × 60 3 段の台 座の上に 設置	A8a 向島小学 校	1958 年 昭和 33 年 9 月 21 日再 刻／昭和 46 年 6 月 28 日 現在地に 移設	B	A	室戸台風による犠牲者を慰霊するため向 島小学校内に設けられた慰霊碑。向島小 では、校舎 5 教室が倒壊。平井ノ、中 整テルの教員 2 名、児童 14 名が死亡した ほか教員 1 名重傷、児童 14 名重傷・軽傷 53 名を数えた。西院小と同じく、ミニ チュアの師弟愛の像が保管されており、風災 記念碑等について、折にふれ子供たちに 伝えられている。	伏 向島 善阿弥町 （向島小 学校内）	2017/ 08/02
C-06	11 伏見	6 昭和 1934-	4 慰霊 1 室戸台風	「風災記念 碑」（桃山 高校）	B705 東面：「昭和九年九月 二十一日 風災記念碑」／西 面：建立趣旨記載	135 × 90 × 18 自然石	A8 c （元）京 都府立桃 山中学校	1935 年 昭和 10 年 01 月	A	A	元京都府立桃山中学校（現桃山高等学校） の室戸台風による風災を記念するための 設けられた慰霊碑。同校では、第 2 教館 と国旗掲揚塔が倒壊。しかし、訓練され た生徒は的確に避難し 1000 名いた生徒教 職員は 1 名も死傷せずに無事であった。 この話を当時入洛した文部大臣が賞賛。 国旗掲揚塔はかを関係者の努力で再建し たことを後世に伝えようと記念碑を建立。	伏 桃山 毛利長 町 8（京 都府立桃 山高等学 校内）	2017/ 07/27
C-07	06 東山	6 昭和 1935-	4 慰霊 1 室戸台風	「師弟愛の 碑（関西風 水害罹災学 童碑）」（大 谷本廟内）	B 706 南面：「2 人の子ども をしっかりと抱きしめた、女 性の姿を刻んだレリーフ埋 込」右下に「昭和 10 年 9 月 浩祐」の銘あり／北面：建 立趣旨記載／横に説明板あり	173 × 170 × 130 自然石	B8 大谷本廟 C 日曜 学校関係 者等有志 寄付	1935 年 昭和 10 年 09 月 21 日	C／立 入り禁 止区域 内	A	室戸台風で犠牲となった学童教師を慰霊 する碑。京都女子高等専門学校（現京都 女子大学）の卒業生横山仁和子先生をは じめとする多くの犠牲者を悼んで大谷本 廟において一周忌の法要が営まれ、あわ せて、日曜学校関係者を中心に広く基金 を募り、「関西風水害罹災学童碑」として 建碑、昭和 10 年 9 月 21 日、除幕式が行 われた。	東 五 条橋東 6 丁目 514 （大谷本 廟内）	2017/ 08/01
C-08	06 東山	6 昭和 1934-	4 慰霊 1 室戸台風	「師弟愛の 像」（京都 女子大内）	B 707 南面：大谷本廟内の レリーフ埋込／同じデザイン のレリーフ埋込／横に説明板あり	60 × 110 × 80 自然石	B1 京都女子 大学	1983 年 昭和 58 年 03 月	A	A	室戸台風により勤務していた豊津尋常高 等小学校で殉職した横山仁和子先生を慰 霊する碑。本碑は、大谷本廟の碑面飾る レリーフを模したもので同大学の名誉教 授・藤田義恵先生が停年退職に際して寄 せられた資金をもとに、昭和 58 年 3 月に 完成。大学の建学の精神を体現した人間 像を示す像としていつまでも彼女を忘れ まいとの誓いが込められている。	東 今熊 野北日吉 町（京都 女子大学 内）	2017/ 08/04
C-09	04 下京	7 平成 2011-	4 慰霊 2 伏見区小 学校事件	「命の輝き」 碑	B708 南面：「命の輝き」京 都市長、橋本頼泰書」／台座 表面：右記建立趣旨／台座表 面：「星になり 輝きにつけ る 俊希くんを 偲んで」	135 × 150 × 101	A1 京都市教 育委員会	2001 年 平成 13 年 12 月 21 日	A	A	平成 11 年 12 月 21 日、伏見区の小学校で、 外部からの侵入者により小学校 1 年生の 児童が刺殺される痛ましい事件が起こっ た。被害児童や遺族の無念を心に刻み慰 霊するとともに、その教訓を風化させる ことなく京都市の全ての教職員に語り継 いでいくため、教員研修センターである 「京都市総合教育センター」玄関横に碑が 建立された。	下 河原 町通仏光 寺 西入 （京都市 総合教育 センター 内）	2016/ 05/27
C-10	03 中京	3 江戸 1754-	4 慰霊 3 その他	「山脇社中 解剖供養 碑」	B709 西面：「山脇東洋解剖 碑所在墓地」／南面：昭和 四十五年三月 京都市	★ 110 × 18 × 19	A3 京都市	1970 年 昭和 45 年 03 月	A	A	山脇東洋によって解剖された刑死人の供 養碑（誓願寺墓地）の供養碑の所在を示 す碑。現在の供養碑は複製で、原碑は京 都大学総合博物館に寄附。	中 新 極通三 条下 る東入 （誓願寺 墓地）	2017/ 06/17

[参考文献]

- ・京都市教育1222年の軌跡編集委員会 2016「京都市教育1222年の軌跡」
- ・京都府教育会1940「京都府教育史・上」
- ・衣笠安喜 1983「京都府の教育史」思文閣
- ・京都市学校歴史博物館2006「京都学校物語」京都通信社
- ・京都市学校歴史博物館2014「京都市学校歴史博物館紀要」第3号
- ・海原徹 1996「日本史小百科 学校」東京堂出版
- ・京都報道センター 1981「明治・大正・昭和 京都市立学校沿革史」

- A-105 中村武生2001「京都三宅安兵衛・清治郎父子建立碑とその分布」花園史学会（22）2001.11
- A-106 吉祥院天満宮社務所1929「吉祥院天満宮詳細録」
- A-108 愛宕郡役所編刊1911「京都府愛宕郡村誌」
- A-108 京都市文化観光局編刊1970「史跡のいしぶみ 第2集」
- A-239 同志社大学 2003「同志社大学通信 One Purpose」135号
- A-244 松田有紀子2010「『花街らしさ』の基盤としての土地所有」Core Ethics Vol. 6
- A-244 京都人権啓発推進会議1996「人権ゆかりの地をたずねてⅡ」
- A-251 河野仁昭1985「キャンパスの年輪―同志社今出川校地―」同志社大学出版部
- A-252 河野仁昭1985「キャンパスの年輪―同志社今出川校地―」同志社大学出版部
- A-302 京都府立医科大学百年史編集委員会1974「京都府立医科大学百年史」
- A-305 同志社校友会1940「同志社新報」第53号
- A-313 大谷大学「大谷前々日大学広報19-5号（1974.12.189）P.3-5,「同19-6号（1975.2.5）」
- A-314 百周年記念誌編集委員会編百周年記念事業委員会刊1981「京都教育大学教育学部附属京都小学校百周年記念誌」
- A-318 神陵史編集委員会1980「神陵史―第三高等学校八十年史―」三高同窓会
- A-319 神陵史編集委員会1980「神陵史―第三高等学校八十年史―」三高同窓会
- A-404 創立120周年記念事業実行委員会1992「伏見板橋小学校創立120周年記念誌 伏見板橋」
- A-413 同志社大学1925「同志社時報」第226号

（大正14年1月1日）

- B-1-11 京都市教育委員会 2014「閉校記念誌 崇仁」
- B-1-12 北桑田郡編集・刊行1923「北桑田郡誌」P.415-416
- B-1-14 京都市教育1222年の軌跡編集委員会 2016「京都市教育1222年の軌跡」
- B-2-08 川岡尋常高等小学校編1911「校史」其式.
- B-2-18 山階小学校創立百周年記念事業委員会編1972「山階校創立百周年記念誌 山階」
- B-2-18 山階小学校創立140周年記念事業実行委員会編2012「創立140周年記念誌 山階」
- B-2-19 世界人権問題研究センター 2017「グローブ2017冬号」裏表紙
- B-2-27 白石正明2006「田中親友夜学校と上田静一」大阪人権博物館紀要（9）5-36
- C-05 向島小学校創立百年記念事業実行委員会1983「百年史 むかいじま」

[参考Web サイト]

- 京都市歴史資料館 情報提供システム・フィールドミュージアム京都「京都のいしぶみデータベース」
<http://www2.city.kyoto.lg.jp/somu/rekishi/fm/ishibumi/ishibumitop.html>
- 京都の石碑めぐりホームページ
<http://kcw.co.jp/sekihi/>
- 京都観光情報ホームページ「丸竹夷／京都の石碑」
<http://www.marutake-ebisu.com/stone-monument/w-index.html>
- 発祥の地コレクションホームページ「京都府の発祥の地」
<https://840.gnpp.jp/area/kyoto/>
- 京都新聞ホームページ「道ばた史料館」
<http://www.kyoto-np.co.jp/info/sightseeing/michibata/>

佛教大学教育学部学会紀要 第17号（2018年3月）